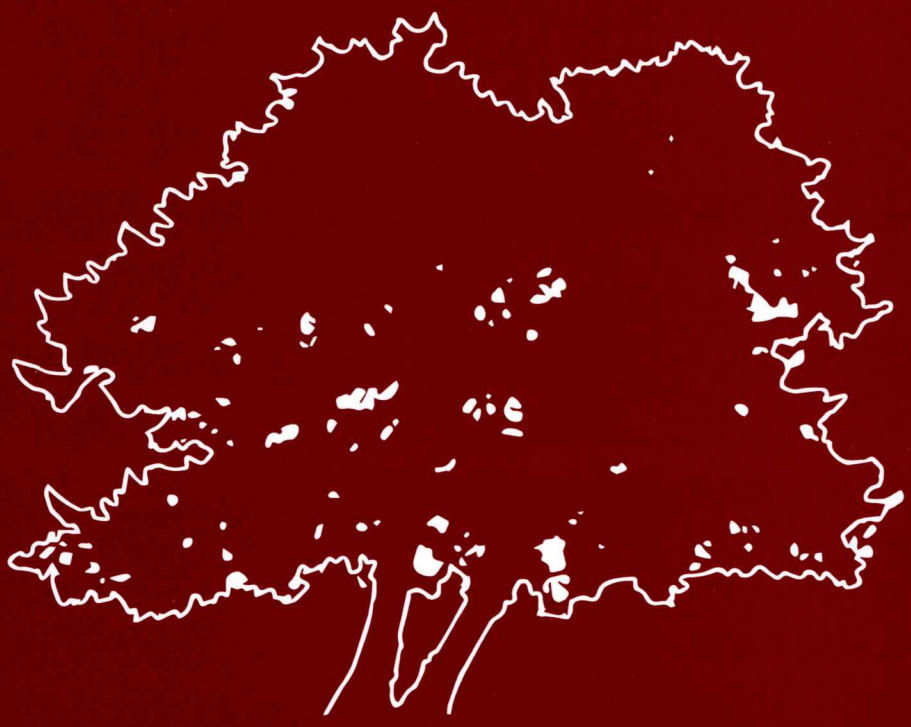
2020

近畿双松会報

—2020（令和2）年度—

島根県立松江中学校
島根県立松江高等学校
島根県立松江北高等学校



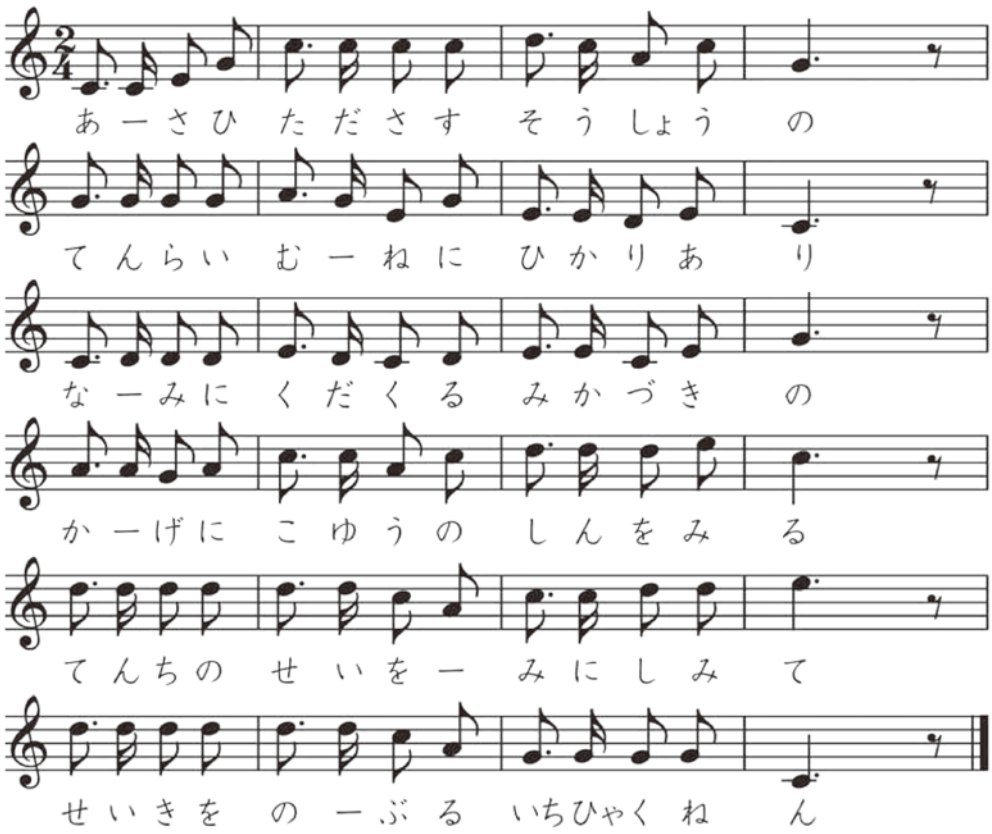
★速報！　四代目の植樹から２年、手入れも行き届き、しっかり育っています。

2021（令和 3）年 3 月 23 日撮影

東（右）側「四代目」（植樹は 2019（平成 31）年 3 月 24 日）、西（左）側は「二代目」

あさひたださす（赤山健児の歌）

西村房太郎　作詞
岩佐万次郎　作曲



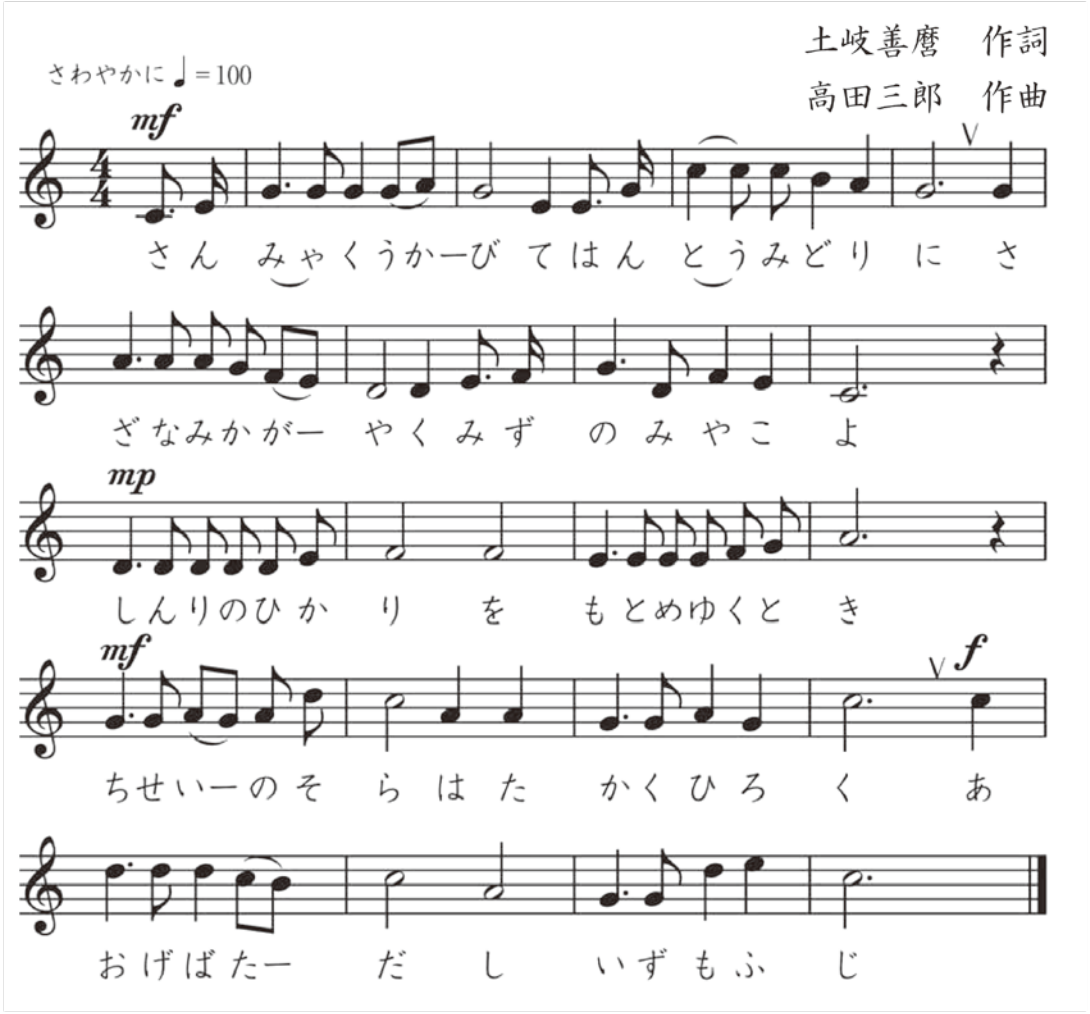
一、
朝暾（あさひ）直刺す双松の　天籟胸に光あり
浪に砕くる三日月の　影に古雄の真をみる
天地の精を身にしめて　正気を舒ぶる壱百年

二、
瘴煙罩（こ）むる椰子の下　月に嘯く夕あり
氷雪鎖す丘の上　北斗に吟ずる晨あり
万里の風に浪搏ちて　大鵬の翼揮へよや

三、
嗚呼剛健と質実と　心の楯に執り持てば
悪魔（サタン）の征矢も身にたたず　高く搴（かか）ぐる我旗の
霊光迷路（メーズ）の闇を射て　理想の郷をてらすなり

四、
稜威輝く日の本の　国の礎さし固め
東洋平和を保つべき　使命を負へる我等なり
責務は重く身は軽し　起てや赤山健男児

さんみゃくうかびて（松江高・松江北高等学校校歌）



一、
山脈浮かびて　半島みどりに
さざなみかがやく　水の都よ
真理のひかりを　求めゆくとき
知性の空は　高くひろく
仰げば正し　出雲富士

二、
郷土の歴史を　深くもたたへて
川風すがしく　渡す大橋
千鳥の城あと　街はさかえて
希望も新た　かくて常に
自由の道を　進むべし

三、
健康ひとしく　いそしみはげみて
世界の人たる　誇りにたたん
友情かわらず　胸をひらきて
こぞれりわれら　若く強く
松江北高　ここにあり

2020（令和２）年度
近畿双松会報

目　次

あさひたださす（赤山健児の歌）……2
さんみゃくうかびて（松江高等学校・松江北高等学校校歌）……3

ご挨拶
近畿双松会会長　松本 耕司（16期）……5
双松会会長　金津 任紀（16期）……6
松江北高等学校校長　常松　徹……7

2020（令和2）年度　松江北高校十大ニュース……8
2020（令和2）年度　近畿双松会　活動一覧……10
2020（令和2）年度　諸行事報告……11
2020（令和2）年度　ＳＮＳによる情報発信と実績……12
近畿双松会からのお願い
メールマガジンとLINE＠を受信下さい……13
2019（平成31・令和1）年度 近畿双松会 会計・監査報告……14
2019.11.24時点 近畿双松会 役員……15
2020（令和2）年度「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名……16
追悼　物故会員……17
会員近況報告（同期会呼びかけ、含む）……18
寄稿「ボランティア活動10年間を終えて」
～奈良国立博物館解説ボランティア～　伴　稔也（9期）……25
「松江の地名の由来は何ですか？」　佐和田 丸（10期）……29
「79才の正月を迎えて・・」　田中 一男（11期）……30
「コロナ禍の春～熱暑の夏～そしてWithコロナの秋へ
……今、思うこと（近況に添えて）」　山本 輝夫（12期）……31
「モンゴルの人達から見た東日本大震災のうら話」　安部 正毅（13期）……33
「汽水湖（宍道湖・中海）地帯礼賛」　三吉　孜（16期）……36
「この世界の片隅で」　森藤 哲章（16期）……39
「コロナのない夏～1970年への旅」　村田　貢（22期）……41
特別寄稿
「知られざる理想の教育者 倉崎仁一郎」
～作家 川端康成の恩師～　押田 良樹（11期）……42
広　告……46
編集後記……47

ご挨拶
近畿双松会 会長
松 本 耕 司（16 期）

会員の皆様には、日頃より当会の活動に対し、格別のご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

この一年以上に及ぶ新型コロナウィルス感染禍は漸く下降局面に入ったかにも見えますが、この間、皆様、そしてご家族様に何事もありませんでしたことを心より念じている次第です。

ご承知のように、本年度は活動を企画しては中止・縮小・延期にせざるをえないという、かつて経験したこともない、本当に残念な一年となってしまいました。（詳細：別掲）

その中で、紆余曲折の多かった、忘れられないこの一年を、せめて「年次会報」の中には記録として残したい、なんとか会報の発行だけはしたいと考えた次第でした。活動材料の少ない中、皆様にはコロナと闘われた日々を近況報告としてご投稿いただきたいとお願いしたところ、沢山の方にご協力賜わり、本当に有難うございました。

お蔭をもちまして、ここに会報を刊行することができ、ホッとしております。この会報が、お互いの“元気づくり”につながり、新しいスタートの踏切板になればと心から願いながらお届け申し上げます。

また、この一年で特筆すべきは、初めて事業として取り組んだ「SNS（メールマガジン・LINE ＠）による情報発信」が、300 名強の受信者を得て 50 件もの情報を配信できたことです。

情報伝達が郵送だけでは十分に対応しきれない時代の流れを考え、遅まきながら取り組みましたが、初年度としては十分なスタートを切れたのではないかと考えています。

今後の目標は一にも二にも受信者を拡大することになりますので。ご登録がまだの皆様にはぜひ受信登録をお願いいたします。（詳細：別掲）

さて、いよいよ 2021 年度の活動を真剣に考える時期になりましたが、ご承知のようにコロナの感染禍はワクチン次第の様相を呈し、引き続き全く予断は許されない状況下にあります。

「中止より再開がむつかしい」と言われるとおり、この一年で社会も人も生活も、価値観も人生観も大きく変わったことを念頭に、皆様のご意見をいただきながら、慎重かつ前向きに検討していきたいと考えております。

現在の当会の目標は、「中堅・若手世代の参加の拡大」に尽きますので、活動再開後も引き続きそこに焦点を当ててまいります。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一方、松江においては、この 4 月、松江市内普通科受験の学区制が廃止されてから、初めての生徒が北高にも入学してまいります。この大きな変化に北高も対応が求められています。そして、今年は明治 9 年の開学以来 145 周年を迎える年でもあり、この秋にはその祝賀の行事も準備されています。

このように、北高も双松会も今年は大きな転換期を迎えますが、「不易流行」を基本に新しいスタートを力強く切って欲しいと願っております。

私たち近畿双松会も、全国の双松会員と心を一つにして、北高やふるさと松江・島根の発展に貢献したいとあらためて思いを強くし、新年度の活動が再開できましたら、一年の中止を物ともせず、再び皆様と元気にお会いできることを心待ちにしている次第でございます。

皆様におかれましては、どうぞ引き続きご自愛賜わり、お元気でお過ごしくださいますよう心からお祈り申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ、この会報にご挨拶を頂戴しました金津双松会会長様、常松松江北高校校長様には深甚なる謝意を申し上げまして、発刊のご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶
双松会 会長
金津任紀（16期）

春爛漫、桜の季節を迎え、近畿双松会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は双松会の事業の運営、活動に格別のご協力をいただき心より感謝を申し上げます。

昨年来、二度にわたる緊急事態宣言が発出された新型コロナウイルス感染症の影響により、この一年、貴会で計画されていた様々な事業も中止や見直しを余儀なくされ、大変なご苦労があったことと推察いたします。

一昨年の12月に中国武漢で確認された新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、これほどまでに人類を苦しめるとは誰が想像したでしょうか。予期せぬパンデミックは世界中を混乱の渦に巻き込み、いまだ終息を見通せない状況です。この上は一日も早くワクチン接種と治療薬の開発が進み、そして、当たり前の日常が戻ってくることを願う次第です。

外出や会員同士の触れ合いの機会が失われ、会員の皆様におかれましては、さぞ息苦しい生活を強いられておられることと、あらためてお見舞いを申し上げます。週末は「どこへ行こう」が「何をしよう」という思考回路に変わるのは私だけではないかもしれません。

コロナ感染症は人を遠ざける厄介な疫病で、ステイホームによって自宅にとどまる時間が長くなれば、運動不足やストレスで心身ともに健康面での悪影響も心配されます。くれぐれもご自愛のほどお祈りいたします。

しかし、耐えるだけで思考停止になっていては、時間を浪費するだけです。新たな生活様式や感染防止策を徹底し、常に笑顔で前向きに、むしろウイズコロナを前提に、一度だけの人生を楽しく有意義に過ごすために仲間や地域とどう生きるか考えることが大切だと思います。

今年の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公で新一万円札の顔、渋沢栄一の人生訓「不自由を世の常と思えば、別に苦情も起こらなければ　くだらぬ心配も起こるはずがない。かくてその志すところの事に従うがよい」という言葉を教えに、思い通りにならないことが普通ときめて身を処すことで、明るい未来が開けてくるに違いありません。

そして、こんなときだからこそ同窓の絆の大切さを考えたいものです。双松会の会員は全国に散らばっています。毎日、NHKのニュースで全国の感染状況が報道されるたびに、会員の安否が気にかかります。コロナ禍を契機に同窓会の形も変わるかもしれませんが、北高のDNAを共有する者同士が励まし合い協力し合うという「共助」の精神を今後ますます大切にしたいと思います。

ちょうど今年からホームページも立ち上げ、双松会の事業や会員の情報はもとより母校北高のホットな情報をお届けできればと思っています。

同窓生同士のご縁を大切にして、よりよい交流の機会へと充実させ、これを活用していただくことで会員の皆様の人生がより豊かなものになることと確信しています。

先の見えない世の中、新型コロナウイルスという未知の難敵に遭遇し人々は不安を抱えています。人間関係が希薄になりつつある現代社会ですが、つながりこそが人が人を支える根幹です。同窓生の縁（えにし）の糸をしっかりと結び大切に育てていきたいものです。その一助としてホームページを活用していただければ幸いです。

地元島根はおかげさまで感染が抑えられ、母校北高の生徒も万全な感染対策のもと元気に勉学にクラブ活動に頑張っています。

松江では高校の通学区制が今年から廃止され、より学校の独自性やアイデンティティが問われることになります。文武両道、質実剛健の「不易」を引き継ぎ、新しい時代にマッチした学校づくりが始まろうとしています。

どうか、近畿双松会の皆様におかれましても、遠い関西の空の下から学校や後輩諸君にエールを送ってやっていただきたく存じます。

今年11月には「創立145周年記念」事業が予定されています。その際には、コロナ禍が終息し、たくさんの皆さんと再会できることを楽しみにしております。

最後に、今日の生きづらい世の中にあって、力になる言葉を一緒に噛みしめたいと思います。

「あおいくま」　あ　・・・　あせるな
　　お　・・・　おこるな
　　い　・・・　いばるな
　　く　・・・　くさるな
　　ま　・・・　まけるな

ご挨拶
松江北高等学校 校長
常松　徹

３月も半ばとなり、日ごと暖かさが増してくるように感じます。今年の桜前線は、例年よりもかなり早目の到来、との予想もなされています。近畿双松会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、まもなく令和２年度も終わろうとしていますが、この一年は「コロナ」に終始した年であった、と言うのが皆様の実感だと思います。会員の皆様の中にも、感染された方やコロナの影響によりいろいろな面で苦しんでおられる方もあるのでは、と心配しております。心からお見舞い申し上げます。

学校現場も、一斉の臨時休業という、未だ嘗て経験したことのない状況となり、全てが手探りの状態で教育活動を維持してきました。もちろん、生徒たちにとっても苦しく辛い一年でした。励みにして頑張っていた県総体や甲子園県予選など様々な大会が中止となり、特に３年生にとっては大きなショックであったと思います。

また、１か月半にも及ぶ自宅学習も、思うように進められず悩んだ生徒も多くいたと聞いています。我々教職員が、今までに生徒が主体的な学習姿勢を身につけられるように指導していたのか、そんなことが問われる場面でもありました。

しかし、学校が再開されると、感染症対策を講じながらではありますが、少しずつ通常の教育活動を始めることができました。様々な行事が中止になる中で、「紅陵祭（学園祭）はなんとかして開催しよう!」と、教職員・生徒が一致団結し、知恵を出し合って工夫しながら３日間行うことができました。「３密」を避けるなど、いろいろな制約がありましたが、生徒たちは限られた条件下でも精一杯のパフォーマンスを見せてくれました。そして、コロナ禍で工夫した取り組みが、今後にも活かせるのでは、と言う気付きもあり、実りある紅陵祭であったと自負しています。

二学期以降は、部活動の各種大会も無観客試合などの工夫をしながら実施され、別掲の「北高十大ニュース」に記載しましたとおり、素晴らしい成績を納めています。また部活動ではありませんが、２年生の橋本紗也加さんが、「2020 国際声優コンテスト「声優魂」in まんが王国とっとり」で最優秀賞を、また、１年生の坂本てまりさんが、「寛仁親王牌第 35 回童謡子どもの歌コンクール　大人部門（中学生以上）」で最優秀の金賞をそれぞれ受賞しました。今後もこうした様々な分野で北高生が活躍してくれるものと期待しています。

ワクチン接種も少しずつ始まってはいますが、まだまだ先の見通しが立たない状況です。一日でも早いコロナの終息を願うと共に、今年こそは近畿双松会の総会で直に会員の皆様とお会いできることを楽しみにしています。

特に今年は学校創立 145 周年の記念すべき年です。そして、私も退職まで残り一年となりました。北高の益々の発展に貢献できるよう尽力したいと思います。会員の皆様も、今までと変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いします。

＜※編集注＞

常松校長先生から下記の 2021 年３月 15 日現在の大学受験結果の速報をいただきました。生徒諸君の今後の人生にエールを送りたいと思います。

＜前期発表時点＞　※過年度卒を含む

・国公立大学 136 名
・いわゆる難関十大学 22 名（東大２・名大３・京大５、・阪大３・神戸大３・九大２など）
・私立大学 285 名（早慶４・関関同立 35 など）
・医学部医学科 14 名（国公立７・私立５・自治医２）

2020(令和2) 年度　松江北高校十大ニュース

（注）この記事は北高教頭・双松会事務局長の田村康雄先生（34 期）に特別制作のご協力をいただきました。

▼令和２年３月卒業生の進路

国公立大学に 165 名（既卒者を含む、以下同じ）が合格。そのうち、難関 10 大学 (北海道大・東北大・東京大・東京工業大・一橋大・名古屋大・京都大・大阪大・神戸大・九州大) の合格者は 17 名、医学部医学科の合格者は６名でした。私立大学の合格者数は、延べ 391 名でした。

▼令和２年度がスタートしたのも束の間・・・

４月８日に令和２年度がスタート、翌９日の入学式で普通科 232 名、理数科 40 名の新入生を迎え、全校生徒数 829 名、起雲館にある補習科生 14 名での新年度が始まりました。

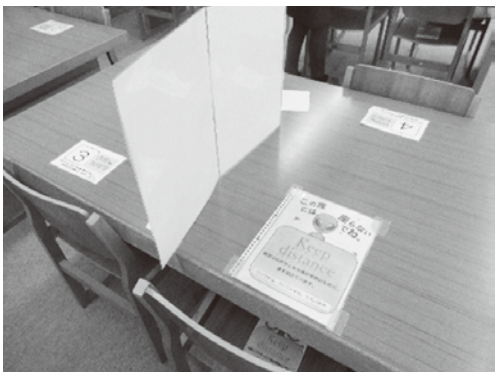
ところが、新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、緊急事態宣言が発令されたため、４月 15 日から５月 31 日までの臨時休業を余儀なくされました。これまで経験したことのない状況の中、学校再開後に向けて校内で会議を重ね、対応策を協議しました。授業時間数の確保のため長期休業期間の短縮や学校行事の大幅な見直しといった対応をする一方で、生徒の健康管理や心のケアにも心を配りました。

▼県総体、インターハイをはじめ各種大会の中止あいつぐ

高校３年生にとっては、高校生活の集大成として臨むはずだった各種の大会やコンクールの中止が次々と発表されました。生徒たちは何ともやり切れない思いのなか、進路実現という次の目標に向かって、気持ちを切り替えていきました。

▼新しい生活様式のなかで

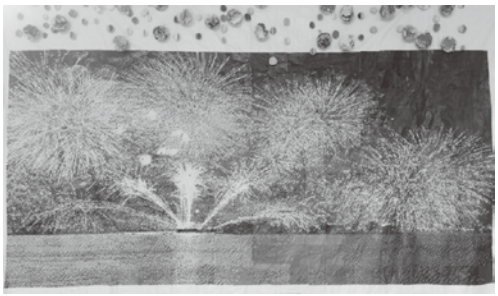
６月１日から学校が再開しましたが、新型コロナ感染防止対策として、マスクの着用、３つの密（密閉・密集・密接）の回避、ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）の確保、手洗い・手指消毒、換気の徹底などの「新しい生活様式」を取り入れながら、学びを止めないために、ＩＣＴ機器の有効な活用方法を研究しつつ「新しい学びの環境づくり」を進めています。



▼紅陵祭（学園祭）盛大に!

今年度は、新型コロナ対策を徹底したうえで、生徒会執行部を中心に工夫を凝らした企画を考え、８月 31 日から９月２日の３日間の日程で学園祭を開催しました。

例年実施している１年生合唱コンクールは中止になりましたが、そのかわり１年生 272 人による合同アートを作成しました。最終日は体育祭で生徒は完全燃焼しました。特に３年生のページェント（野外劇）は圧巻でした。



▼部活動再開!　各部の活躍

女子ボート部：ダブルスカルで和田さん（２年）、三井さん（２年）が全国選抜大会出場権獲得
登山部：中国新人大会で団体女子３位
箏曲部：県高文連日本音楽コンクールで最優秀賞、令和３年度全国総文祭出場権獲得

放送部：ビデオメッセージ部門で優秀賞、令和３年度全国総文祭出場権獲得
自然科学部：口頭発表の部物理分野で最優秀賞、令和３年度全国総文祭出場権獲得
美術部：絵画の部で川本さん（2 年）、佐々木さん（1 年）が令和３年度全国総文祭に出品
将棋部：古志野君（2 年）、大畠さん（2 年）、下舞さん（2 年）、野尻さん（2 年）が全国新人戦出場権獲得
囲碁部：永田さん（2 年）が全国選抜大会出場権獲得
吹奏楽部：アンサンブルコンテスト中国大会金管八重奏の部で銀賞
百人一首かるた部：中国高校小倉百人一首かるた大会で、島根県チームの一員として団体準優勝
その他：・読書感想文全国大会出品（中里さん・１年）・高校弁論大会全国大会出場県獲得（内田さん・１年）
・ビブリオバトル全国大会出場権獲得（野尻さん・２年）・科学の甲子園全国大会出場権獲得
・岩見さん（２年）が中国高校書道展で島根県教育委員会教育長賞、令和３年度全国総文祭に出品

▼理数科 1 年生隠岐島前研修

本校魅力化の一環として 10 月 7、8 日の 1 泊 2 日の日程で、理数科 1 年生 40 名が隠岐島前研修に出かけました。世界ジオパークにも選ばれた大自然の地域資源を活かした産業施設や離島医療機関などにおける実習・体験・講義を通して、島根の魅力を再認識し、また、隠岐島前高校の県外生を含む生徒との交流を通して、価値観を拡げ、大いに刺激を受けることができました。

▼災害避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）研修

11 月、松江市防災安全部防災安全課のスタッフ他６名の方を講師として招き、普通科 1 年生が、多様な人々と物資が集まる災害避難所で、授乳室が欲しいといった要望や、受付に発熱者が来た場合の対応など次々に起こる事態に対処しながら、どのように避難所を運営したら快適に過ごせるかをゲーム形式で学習しました。

▼寛仁親王牌第 35 回童謡こどもの歌コンクール大人部門　最優秀金賞受賞

坂本てまりさん（1 年）が標記コンクールで最優秀の金賞を受賞しました。

３つの部門に全国から計 5,500 組以上の応募があったなか、坂本さんは 1 次、２次審査を通過し、11 月 22 日のグランプリ大会に出場。澄んだ歌声を伝えようとする姿勢が高く評価されての受賞でした。坂本さんは、小学２年の時に松江プラバ少年少女合唱隊に入り、各種コンクールに出場。島根発のミュージカル「あいと地球と競売人」で主役を演じた経験もあります。

▼松江北高公式 Facebook move kita を開設
（「いいね」をお待ちしています）

https://www.facebook.com/ 島根県立松江北高等学校 -move-kita-115794323570536

２０２０（令和2）年度　近畿双松会　活動一覧

本年度は、総会の中止をはじめ、新型コロナ感染禍に翻弄され続けた一年になりました。その中で2020 年 1 月から開始した SNS（メールマガジン、LINE@）で、情報を発信し続けることができたことは大きな成果となりました。活動一覧は下記に、諸行事報告と、SNS 発信の実績は別掲します。

＜※編集注＞下記の★印は新型コロナ禍の関連記事、ならびに影響を受けた行事。

◆２０２０（令和２）年 ＜２０１９（平成３１・令和元）年度＞

1月	１０日	（金）	メールマガジン”さんみゃくうかびて”第 1 号を約 300 名に配信開始
	１１日	（土）	事務局会議 & 有志新年会開催（参加 16 名）
	１９日	（日）	第 3 回宝塚歌劇鑑賞会（参加 32 名、於：宝塚大劇場）
2月	初旬		★ダイヤモンドプリンセス号で新型コロナウィルス感染者発生
	２９日	（土）	令和 2 年度新年役員懇親会（新年度方針確認）（参加 20 名）
3月	1日	（日）	北高卒業生に双松会入会式で「メールアドレス登録」を要請
	２８日	（土）	★第 12 回落語鑑賞会（天満天神繁昌亭・予定 40 名）　⇒直前中止
			第 5 回松江北高野球部大阪遠征応援　⇒遠征企画の中止
	３１日	（火）	令和元年度会報の発行
	〃	〃	令和元年度会計年度終了

◆２０２０（令和２）年度

4月	1日	（月）	令和 2 年度事業・会計開始
			★新年度運営方針検討「事務局会議」　⇒中止
	7日	（火）	★第一次「緊急事態宣言発令」　⇒京阪神は 5 月 21 日で解除
	１４日	（火）	★令和 2 年度事業計画、平成 31・令和元年度「会報」発送（4 名で対応）
5月	２８日	（木）	★第 44 回近畿双松会ゴルフ（希望 17 名、ライオンズ CC）　⇒直前中止
6月	2日	（火）	★「今後のコロナ下での運営方針」について、HP に掲載・周知
	9日	（火）	近畿松江会幹部との交流ゴルフを開催（当方参加：5 名）
	２７日	（土）	第 10 回里山ハイキング下見（橿原市：藤原宮、万葉の歌碑巡り）
7月	１２日	（日）	第 15 回歴史ウォーキング下見（”麒麟が来る”の明智光秀から福知山）
	１９日	（日）	★事務局会議　⇒急激な感染拡大のため直前中止
			★第 15 回文楽鑑賞会　⇒国立文楽劇場休館のため中止
8月	２９日	（土）	★総会中止、会報原稿募集案内を全会員に発送（4 名で対応）
１０月			★第 15 回歴史ウォーキング（福知山）⇒感染と遠隔地の観点から中止
１１月	２８日	（土）	★令和 2 年度「総会・講演会・懇親会」を中止
	〃	〃	★第 10 回里山ハイキング（希望 25 名、橿原市））⇒直前中止
１２月	３０日	（水）	メールマガジン”さんみゃくうかびて”第 50 号を配信
	〃	〃	令和 2 年度「会報」の編集開始

◆２０２１（令和３）年 ＜２０２０（令和２）年度＞

1月			★事務局会議 & 有志新年会を中止
	7日	（木）	★第二次「緊急事態宣言発令」　⇒京阪神は 2 月末日で解除
	１７日	（日）	★第 4 回宝塚歌劇鑑賞会（希望 23 名、於：宝塚大劇場）　⇒直前中止
	２５日	（月）	双松会（松江）のホームページ開設準備作業に協力開始
			★令和 2 度新年役員懇親会　⇒延期
2月	２８日	（日）	2019 年度会計監査実施
3月	1日	（月）	北高卒業生に双松会入会式で「メールアドレス登録」を要請
			★第 13 回落語鑑賞会（於：天満天神繁昌亭）　⇒延期
	３１日	（水）	令和 2 年度「会報」の発行
	〃	〃	令和 2 年会計年度終了

※ＨＰアクセス件数；2021.3.26 現在　５０，３０５件（前年＋３，５０１件）

2020（令和2）年度諸行事報告

2021年3月7日　事務局

2020年の諸行事は、前記「活動一覧」のとおり、新型コロナ感染禍と直面し続けた一年となった。

始まりは2020年2月29日の役員会で、その時は3月落語鑑賞会は土田和男常任幹事（16）以外は「もう少し様子を見て」ということだったが、アッと言う間に中止せざるをえない事態となった。

2020.2.29 役員会 (この時までは…)

その後は、「諸行事」は趣味を同じくする方々が集う大事な活動なので、「室内行事」はむつかしくても、「屋外行事」はなんとかと、その時々の感染状況を注視しながら取り組んだが、結果は下記のとおり「企画しては中止」の繰り返しとなった。

・3月「落語鑑賞会」　募集後中止
・5月「ゴルフ」　募集後中止
（6月、近畿松江会との縮小交流ゴルフ会開催）
・7月「文楽鑑賞会」　中止
・10月「歴史ウォーキング」　下見後中止
・11月「総会・講演会・懇親会」　事前中止
・11月「里山ハイキング」　募集後中止
・1月「宝塚歌劇鑑賞会」　募集後中止
・1月「役員会」　延期
・3月「落語鑑賞会」　延期

6月9日縮小ゴルフ会（近畿松江会と交流）

特に、11月の「総会・懇親会」は、「三密回避」を模索し、「社会の安全・人心の安心」の担保を基準にギリギリまで状況の好転を待ったが、結果としては初めての総会中止という判断をした。残念だったがやむをえないことだったと考えている。

また、秋に予定していた「里山ハイキング」は、「新元号・令和の典拠である万葉集」の歌碑の多い橿原市の藤原宮近辺の歌碑巡りをしようと、二年越しの計画を立てて下見も終わっていた。企画の趣旨が、「令和の代」が一日も早く穏やかになることを祈ることだっただけに、中止は残念だったが、近畿全域からの集合になるので橿原市の皆様にご迷惑をかけられないと判断した次第だった。

6月27日 里山ハイキング下見（藤原宮跡）

さらに、本年1月の「宝塚歌劇鑑賞」もスターの退団公演が重なったため多数の熱心なご希望があったが、やはり最終的には公式行事としては中止にせざるをえなくなった。しかし、折角のチケットを活かして個人で鑑賞をされた方から、感謝のお声とともに、大劇場前の「姉妹都市松江市・宝塚市友好の桜」がすくすくと成長しているとのご報告をいただいたのはうれしい出来事だった。

以上、2020年は苦労だらけの一年となりましたが、漸く感染の落ち着きも見えてきた中、2021年度は一日も早く皆さんの笑顔と再会できることを心待ちにしています。どうぞご参加ください！

2014年3月植樹
「松江市・宝塚市友好の桜」

2020年度　SNSによる情報発信と実績

＜メールマガジン（以下：MM）、LINE @（以下：L@）＞

新型コロナ禍の中で、すべての活動が止まった中、唯一、初年度として取り組んだ「SNS による情報発信」が近畿双松会の会員をつなぐ「絆」となり、大きな成果を挙げました。

当会の将来を見据えた情報発信体制整備のため、SNS 担当として押田良樹さん（11 期·MM & HP 担当）、冨岡幸子さん（35 期·L @担当）、安達宏昭さん（43 期）には、試行錯誤の一年に前向きに取り組んでいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

お蔭をもって、2020 年 1 月の発信開始以来、一年間で下記 50 件の発信をすることができ、会員の受信者も 300 名を超えるまでに至りました。今後もよりよいMM／L@の発信をめざしたいと考えますので、ご遠慮なくご意見をお寄せくださいますようお願いします。

また二年目の課題は「受信者の拡大」につきますので、ご登録がまだの方は、この機会に次ページの手続きに従い、メールアドレスを登録いただきますようお願いいたします。

＜※編集注＞MM受信の登録をされていない方は、下記配信実績の内容を近畿双松会ホームページの左列見出し「メルマガアーカイブ」からご覧になれますのでご利用ください。

＜2020 SNS 発信実績＞

No.	月 / 日	記事	No.	月 / 日	記事
2020			29	7.22	生誕 130 年河井寛次郎展について
1	1.10	メールマガジン配信開始にあたって	30	8.5	古代出雲歴博企画展、関連動画配信
2	1.10	2019 年度総会・講演会・懇親会のお知らせ	31	8.21	電子ブック「いまどき島根の歴史」更新
3	1.16	岸清一についての NHK 放送のお知らせ	32	8.21	『懸賞クイズ　いにしえからの挑戦状④』
4	1.16	“同期会だより” の原稿募集のお知らせ	33	8.21	「島根学講座 in 大阪」のお知らせ
5	1.16	「3 月の行事」について	34	9.7	「総会・講演会・懇親会」中止のお知らせ
6	1.22	第 3 回宝塚歌劇鑑賞会を実施しました	35	9.19	松江市内県立普通科 3 高校の紹介ビデオ
7	1.24	会員の投稿 (試行) （松本耕司さん 16 期）	36	9.25	旧制松江高等学校「青春の歌」と余話
8	2.2	ノーベル賞吉野彰氏と吉野勝美氏（11 期）	37	9.25	松江北高「学校案内」のご紹介
9	2.5	落語鑑賞会（3/28）のお知らせ	38	10.16	小泉勝是さん（14 期）の水彩画グループ展
10	3.3	春日敏邦さん（5 期）の日本画展のお知らせ	39	10.16	加納莞蕾氏が中学校の歴史教科書に
11	3.3	本年度近畿双松会日程についてほか	40	10.17	「湖都松江」第 40 号が発行
12	3.5	故郷の話題のテレビ番組のお知らせ	41	10.20	「島根の歴史文化講座＋オンライン」案内
13	3.7	「ゴルフ同好会」の皆様へのご案内	42	11.7	「里山ハイキング」についてのお知らせ
14	3.11	春日敏邦さんの絵画展中止のお知らせ	43	11.29	小泉勝是さん（14 期）が水彩画を掲載
15	4.5	新型コロナウイルスと島根県の状況	44	12.5	年次会報への「近況報告・紹介」のご投稿
16	4.7	「湖都松江」vol.39 発売のお知らせ	45	12.8	島根県古代文化センターからのお知らせ
17	4.14	郷里の話題のテレビ番組のお知らせ	46	12.16	文藝春秋 1 月号「同級生交歓」記事
18	5.2	古代出雲歴史博物館からの動画配信	47	12.24	北高生が童謡コンクールの金賞受賞
19	5.8	自宅で楽しむ島根の歴史と文化の動画配信	48	12.25	童謡コンクールのテレビ放映のお知らせ
20	5.16	『懸賞クイズ　いにしえからの挑戦状①』	49	12.28	「市報松江」に会員の投稿が掲載
21	5.19	歴史の狭間に埋もれた偉人・カルシュ博士	50	12.29	NHK ファミリーヒストリーのお知らせ
22	6.2	近畿双松会の現状と今後の運営について	**2021**		
23	6.16	「電子ブック　いまどき島根の歴史」の公開	51	1.27	新日本風土記「隠岐諸島」放映
24	6.16	『懸賞クイズ　いにしえからの挑戦状②』	52	1.28	「知ろう!探ろう!石見銀山」の配信
25	7.9	短編動画「知ろう!探ろう!石見銀山」配信	53	1.28	松江 3 高校通学区廃止に伴う記事
26	7.14	「電子ブック　いまどき島根の歴史」の更新	54	1.29	「出雲弁ラジオ体操」CD のご案内
27	7.14	『懸賞クイズ　いにしえからの挑戦状③』	55	3.9	双松会「オンライン交流会」案内など
28	7.22	短編動画「知ろう!探ろう!石見銀山」②			

～ メールマガジン“さんみゃくうかびて”と、LINE@を受信下さい ～

近畿双松会はメールマガジン（以下MM）とLINE@（以下Ｌ@）で、総会や同好会行事、会員の活動紹介、北高やふるさと松江・島根に関する情報を配信していますので、ご参加、ご受信ください。
（MMとＬ@は上記の配信に限定します。）

登録されたメールアドレス等の情報は、近畿双松会の趣旨・目的にかなう内容のみに使用し、MMの運用も専門業者と契約して個人情報の管理には万全を期します。

１．メールマガジンで受信する

メールアドレスの登録が必要です。（下記いずれかで登録ください）

①ＰＣ、スマホで、近畿双松会ＨＰ（「近畿双松会」で検索）のトピックス上部の「★メールアドレスの登録をお願いします★」から登録してください。

②または、スマホのＱＲコードアプリをお持ちの方は、右記から上記のページを読み込み、所定項目を記入、送信ください。

③上記①②で登録できない場合は、ＰＣ、スマホから、下記専用アドレスを直接入力して記入、送信ください。
⇒専用（送信元）アドレス；**kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org**
※【件名】には、「メールアドレス登録」と記入。
※本文には、（必須）①お名前（旧姓）、②卒業期（卒業年）
（任意）③住所、④電話、などを記入ください。

※：スマホでメールマガジンが受信できない場合、受信拒否設定をされたままの可能性があります。
上記、専用（送信元）アドレスの受信を許容する設定にしてください。
※：スマホからの登録の方で、PCのメールもお持ちの方は、PCメールとの複数登録をおすすめします。
※：PC受信の場合、稀に「迷惑メール」に入っている可能性もありますので、チェックしてください。

２．LINE@で受信する

右記、ＱＲコードから登録ください。

MMと同一の情報はＬ@からも受信できます。
スマホでの受信が便利な方は、ぜひＬ@を利用ください。

近畿双松会
@ept2359o

※トークから①お名前（旧姓）と②卒業期（卒業年）を入れると登録されます。トークまたはタイムラインで受信ください。

（注）MMとＬ@は、両方ご登録でも、どちらか一方でも結構です。

2019（平成 31・令和 1）年度 近畿双松会 会計決算書

2019（平成 31）年 4 月 1 日～ 2020（令和 2）年 3 月 31 日　　（単位：円）

収入の部		支出の部	
◎ 前期繰越金	2, 284, 871	◎ 支出計	2, 590, 953
◎ 収入計	2, 228, 502	・通信費	228, 280
		・印刷費	128, 333
		・事務費	212, 653
・平成 31・令和 1 年度運営費支援収入	633, 000	・郵便、銀行手数料等	36, 797
・同、寄付・広告収入	279, 000		
・平成 31・令和 1 年度総会参加費	720, 500	・平成 30 年度 60 周年記念会報費	425, 760
・平成 31・令和 1 年度諸行事参加費収入	536, 000	・平成 31・令和 1 年度総会費	960, 737
		・平成 31・令和 1 年度諸行事支払い	537, 419
・令和 2 年度役員会参加費	60, 000	・令和 2 年度役員会会議費	60, 974
・利子収入	2		
		◎次期繰越金	1, 922, 420
		・内訳	
		（郵便貯金振替残）	1, 574, 752
		（郵便貯金）	244, 037
		（現金）	103, 631
◎ 総合計	4, 513, 373	◎ 総合計	4, 513, 373

繰越金前年比　（－）362, 451

上記のとおり報告いたします。

会長兼事務局長　松　本　耕　司　㊞

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2021（令和 3）年 2 月 28 日

監事　物　種　慶　子　㊞

監事　鶴　羽　孝　子　㊞

近畿双松会　役員（2019.11.24 時点）

2019 年 11 月 24 日総会承認

（事務局からのおことわり）

役員の任期は、会則第５条により２年（再任可）と定められており、昨年の総会時点がその２年に該当しました。しかし、昨年の総会は中止となり、新型コロナ禍の中で、役員の継続や交代の事務も思うにまかせませんでした。

現在、現役員の皆様のご意向はいただいていますが、新役員を含めて公表するには至っていませんので、前回総会時点の役員名簿を下記に掲載します。ご理解をお願いします。

役	期	氏　名	役	期	氏　名
常任顧問	高 7	山 本 雅 昭	常任幹事	高 19	岩 田 一 志
常任顧問	高 11	押 田 良 樹	幹事	高 19	池田喜美代
			常任幹事	高 20	山嵜麻里子
会長	高 16	松 本 耕 司	常任幹事	高 20	渡 辺　悟
（兼）事務局長			常任幹事	高 20	小数賀健二
			常任幹事	高 22	村 田　貢
副会長	高 16	梅 木 隆 志	常任幹事	高 22	内 藤 善 夫
副会長	高 20	三 好 資 子	常任幹事	高 22	大 浦 綾 子
副会長	高 23	松 本　潤	幹事	高 23	松 本 幸 子
			幹事	高 23	山 口 紀 子
監事	高 20	物 種 慶 子	幹事	高 24	徳 田 完 二
監事	高 22	鶴 羽 孝 子	幹事	高 24(理 3)	岩 間 令 道
			幹事	高 24	糸 原 直 彦
幹事	高 1	苅田運三郎	幹事	高 24(理 3)	泉 紳 一 郎
幹事	高 2	堀江眞三人	幹事	高 26	福 間 則 博
幹事	高 3	緒 形 公 士	常任幹事	高 26(理 5)	松 村　聡
常任幹事	高 5	山 田　稔	幹事	高 26	周 藤 達 夫
幹事	高 6	田 村 稔 久	幹事	高 27	新宮富美子
常任幹事	高 7	廣 政 俶 彦	常任幹事	高 29	廣 瀬 弘 美
幹事	高 8	山 﨑　杲	幹事	高 30(理 9)	千 葉　潮
幹事	高 9	逸 見 充 宏	常任幹事	高 31	宍 道 弘 志
幹事	高 10	面 白　紘	幹事	高 31	小 林　満
幹事	高 11	田 中 一 男	幹事	高 31	西 村 英 明
幹事	高 12	萩 野 貫 悟	幹事	高 32	浅 沼 吉 正
幹事	高 13	永 江 幹 雄	幹事	高 32	木 村 滋 樹
常任幹事	高 14	加 藤 巡 一	幹事	高 32	田 黒 公 司
常任幹事	高 15	金 坂 喜 好	幹事	高 32	藤 本 斉 子
幹事	高 15	佐 藤 修 介	幹事	高 33	柳 井 利 明
常任幹事	高 16	土 田 和 男	常任幹事	高 35	冨 岡 幸 子
幹事	高 16	三 成 宏 二	幹事	高 36	森 口 次 郎
常任幹事	高 17	岡　久 夫	幹事	高 38	長谷川浩之
常任幹事	高 18	小 田 一 美	幹事	高 43	安 達 宏 昭
幹事	高 18	石賀誠一郎			以上　60 名

2020（令和2）年度「運営費支援、寄付・広告」 ご協力者 ご芳名（敬称略）

近畿双松会は有志の皆様の支援により運営しています。新型コロナウィルス禍の中を有難うございました。

（令和３年２月７日現在）

中 66 期
熊野 禮助
中 68 期
荒銀 昌治

高 1 期
飯塚 満男
伊藤 雅義
宇藤二男丸
苅田運三郎
喜多川治美
竹内 一郎
和田 亮介
高 2 期
作野 宏
成合 茂博
堀江眞三人
高 3 期
緒形 公士
小川 伸江
高 4 期
泉 寛治
藤原小夜子
高 5 期
板垣 衛武
客野 伸
簗 武夫
高 6 期
荻野 克彦
田村 稔久
永江 秀一
森岡 敏眞
石原 綏子
高 7 期
青戸 俊夫
寺本 好弘
廣政 俶彦
山本 雅昭
泉 桂子
高 8 期
黒田 牧夫
高 9 期
影山 武男
澄川 光成
田中 英明
伴 稔也
山岡 裕明
安部 裕子
佐々木悦子
佐藤早智子
高 10 期
面白 紘
須山 耕
佐藤 菁治
佐和田 丸
清水 義男
清水小枝子
高 11 期
押田 良樹
神門 英明
田中 一男
野津 丞
村尾 俊治
今井 洋子
田村 廸子
中尾 長子
中川 陽子
高 12 期
萩野 貫悟
森 倫也
高 13 期
安部 正毅
今井 勝治
深澤千栄子
水野 明代
山下 倶子
高 14 期
石田 英之
片山 伸雄
加藤 巡一
川上 克彦
木村 修芳
小泉 勝是
木幡 晃正
富永 寿郎
宮原 琢郎
三好 洋二
新名貴久子
三島 幸子
矢野 達枝
高 15 期
金坂 喜好
佐藤 修介
高 16 期
井上 伸久
梅木 隆志
清原 正義
佐々木康雄
土田 和男
坪倉 司郎
長野 米一
松本 耕司
三成 宏二
森藤 哲章
伊藤 育子
田中由美子
中安 節子
高 17 期
岡 久夫
後藤 研三
永井 貞泰
木島 光子
島本妃早美
西野やよい
高 18 期
小田 一美
稲生 喜子
白神知都子
高 19 期
岩田 一志
新見 泰朗
槇原 隆
元栄 徹
池田喜美代
大久保章子
高 20 期
小数賀健二
金見 幸夫
渡辺 悟
平田 まり
三好 資子
山嵜麻里子
高 21 期
野津 一雄
花田 幸久
竹添 則子
高 22（理1）期
石川 章
内藤 清志
内藤 善夫
村田 貢
大浦 綾子
大濱 緑
木山 洋子
鶴羽 孝子
西村 紀子
松下 和子
高 23（理2）期
朝比奈博則
近藤 文雄
松本 潤
森脇 泰雄
和田 邦孝
今西 桂子
小松久美子
西村 充子
松本 幸子
山口 紀子
葭田久美子
高 24（理3）期
岩間 令道
河村 敦子
西田 悦子
水野 順子
高 25（理4）期
飯石 浩康
高 26（理5）期
伊藤 博之
岩崎 範樹
川谷 徳彦
周藤 達夫
福間 則博
松村 聡
前羽 香江
高 27（理6）期
三浦 清
木田 京子
新宮富美子
松田 稚子
高 29（理8）期
石橋 敏幸
太田 春樹
浜野 則子
廣瀬 弘美
高 30（理9）期
杉原 伸治
千葉 潮
高 31（理10）期
小林 満
宍道 弘志
高 32（理11）期
田黒 公司
高 34（理13）期
細田 昌幸
高 36（理15）期
今宮 一正
高 38（理17）期
山根 武広

161 名
（昨年 214 名）

（ご不審の点は事務局までご確認ください）

追　悼

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（新型コロナウィルス感染禍のため、音信の機会が減りましたが、
令和元年 11 月 24 日総会以降、事務局にご連絡のあった方を掲載しました）

物故会員

期	お名前	ご逝去年月日
中 66 期	水野堯之様（京都市）	令和 3 年 2 月 26 日
高 2 期	矢守淑子様（京都市）	令和 2 年 2 月
高 2 期	久保田幸雄様（神戸市）	令和 2 年 8 月 16 日

・・・・高 10 期 出口典雄様（東京双松会会員）ご逝去の追悼の言葉・・・・

佐和田　丸 様（高 10 期）

令和 2 年 12 月 16 日、シェイクスピア劇の演出家として著名な出口典雄様の訃報が全国紙に掲載されたことに対し、同期の佐和田 丸様より追悼の言葉が寄せられました。

（出口典雄様 略歴）演出家。当時の島根村出身、高校時代はバスケット部の主力選手。東京大学文学部卒。文学座・劇団四季を経て劇団シェイクスピア・シアター主宰。1981 年、シェイクスピア全 37 作品を世界で初めて一人の演出家による演出・上演を達成。

（佐和田 丸様 追悼の言葉）同級生で親友の演出家、出口典雄君の訃報が昨年末の全国紙に載り、悲しい思いをしました。いつでしたか、大阪公演に来たとき、公演後しばし歓談しました。当初、杉村春子さんの劇団に所属し、シェイクスピアを担当していたようですが、杉村さんがシェイクスピアをやめたいと言い出し、ひと悶着あったらしい。結局、自分のやる仕事がなくなり、やむなく自分でシェイクスピア劇団を立ち上げたと申しておりました。

合掌。

会員近況報告　（同期の皆様への呼びかけ、を含む）

新型コロナウィルス禍のため、本年度は会報の編集もむつかしいと思いましたが、コロナごときに負けて伝統の会報を途絶えさせるのは何とも口惜しく、皆様から「近況報告」さえいただければ会報もできて、お互いの元気づくりにもなるのではないかと考えました。

呼びかけにご協力いただきました皆様、有難うございました。一日も早く、この言わば「コロナ版近況報告」が思い出話になりますよう・・。

高 2（昭 26 卒）堀江 眞三人（西宮市）

私は年より若く見られる。だから年を聞かれると十歳引いて答えている。相手が納得すればいいのだから。これをエンマ大王の前でやると舌を抜かれるが。

日課にしているウォーキングは雨の日は傘をさしても出る。自宅から甲子園球場へ行き、外周を回って帰るコース。距離は約 3,8 キロ。歩数計で測り歩幅 50cm を掛けて計算している。人通りの多い道路を鍛えた足で軽快に、何人も追い抜いて歩くのは痛快ではないか。まだまだ元気、元気。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 6（昭 30 卒）石原 綏子（堺市）

新年おめでとうございます。80 数年生きていて、このような年は初めて・・、本当にコロナ、コロナと話題はコロナしかないような今の世の中ですね。地球規模で・・。

毎日の家事はいつもの事。友達との交流やボランティア活動も休止、あらゆる活動休止に生きてる意味がないよぉー、と叫びたくなる毎日です。

そんな毎日の僅かなたのしみは、散歩です。その昔、南蛮船が入港した旧堺港の大浜港が近場にあり、その港にはわが国で最も古い大浜灯台があり、龍女神像があって手を振ってご挨拶しています。突堤まで歩いて大浜公園に向かい、公園内のおサルさんの檻の前で、又、おサルさんにご挨拶して、しばらく観察して家路に向かっています。歩数は 7000 歩くらいです。

旧堺港の大浜灯台 1877（明治 10）年築造のわが国最古の木造洋式

皆様もどうぞ余生をたのしんで・・。何よりコロナに気をつけてお過ごしくださいませ。

＜※編集注＞：「大浜公園（堺市）」・・明治 36 年に内国勧業博覧会が開かれたとき、水族館、歌劇場、潮湯、旅館、相撲場などが整備された。
※「龍女神像」・・博覧会時に水族館の入り口に造形物としておかれ、現在、手を加えられて港内に再設置。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 10（昭 34 卒）佐和田 丸（枚方市）

昨年の新年は、子供 3 人孫 6 人、総勢 14 人で傘寿祝いをしてくれた楽しいはじまりでしたが、その後コロナが流行り、コロナにコロッと殺されるかもしれないと不安の毎日で、今も続いています。

2021.2.20 付の読売新聞朝刊に、ミニシアター「シネ・ヌーボー」の紹介記事が載っておりました。劇場主・景山理君は、私の郷里飯南町小・中校の後輩知己です。

ご存じのように今、劇場経営は大変のようです。映画ファンの方に、吹聴・応援をお願いします。場所は、大阪メトロ九条駅下車、ナインモール九条商店街を南へ 10 分、反対方向に行くと、なんとかミュージックへ入りますので方向を間違えないようにしてください。詳細はＨＰで。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 11（昭 35 卒）押田 良樹（吹田市）

①思いもよらぬコロナ禍で、郷里松江の橋巡りは一度も実行できず、代わりに地元吹田市を南北に流れる山田川にかかる全橋渡破に挑戦しました。

上流の北千里から摂津市の安威川合流地点まで 45 の橋がありました。現在は 3 面をコンクリートで固められ、両岸に建物がひしめく風情のない川ですが、かつては流域を潤す貴重な水路だったろうと想像しながら吹田を再発見できました。

②毎日 1 万歩を目指していたウォーキング、酷暑期の自重もあり年間平均は 8800 歩と目標未達でした。

三密と無縁の広い万博自然公園が近くにあることをありがたく思っています。

③初挑戦のメルマガでしたが 50 号まで配信でき、行事休止の中、会の連帯感・絆の維持にいくらか寄与できたかなと自己採点しています。

＜※編集注＞押田さんは、近畿双松会メールマガジン“さんみゃくうかびて”の編集・運営担当。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 11（昭 35 卒）畑田　稔（神戸市）

近畿双松会の皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は予想だにしなかったコロナウイルス騒動で、東京オリンピック観戦を始めとしてあらゆる計画や行事が延期又は中止となって、本当にストレスの溜まる残念な一年でした。

お陰でステイホームが長くなり、運動不足もあって体重が 2kg も増え、今、慌てて減量に取り組んでいるところです。

とは言っても、このコロナ禍の環境ではスポーツジムやゴルフにも思うようには行けず、減量成果もほとんど上がっていません。

しいて言えば、離れて住んでいる孫たちとポケモンのモンスター集めで競争している最中で、ポケモンスポットを巡ってモンスターを集めつつ、走行距離を稼いで運動の足しにしている毎日です。

今年こそはコロナウィルス感染症の終息をと願っております。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 13（昭 37 卒）桑原 洋史（京都市）

＜この頃思うこと＞

我が家は毎年一月二日に琵琶湖の畔のホテルで家族揃って新年会をする。これは父の、年に一度のお年玉である。最初は夫婦に子供二人で始まった。この日だけは万難を排して出席をするように決めてある。

時が経ち、弟に嫁さんができて五人になった。そのうち子供が一人でき、二人できた。七人になった頃に、兄に嫁さんができた。これで八人になった。

そして、今年の新年会で弟に三人目ができそうだと。兄からも子供ができそうだと。順調にいけば来年の一月二日は総勢十人の新年会になる。

以前は新年の挨拶に、君達はどんな理由であれ親より早く死ぬことはないようにと、話していた。今年は君達が居てくれるだけで、とても幸せだと話した。

極くありきたりの日常がなかなかやれない今、新年会をやれたことは幸せ以外には何もない。

高 14（昭 38 卒）木幡 晃正（丹波篠山市）

先の双松会メールマガジン 50 号で、ＮＨＫファミリーヒストリーのお知らせ（“麒麟が来る”明智光秀役、長谷川博己氏のルーツ放映）があり、拝見いたしました。

松江市玉湯町玉造温泉の最古の源泉の老舗旅館がルーツで、出雲富士・大山の大山寺 1300 年前の開祖伝説の家柄で、親父さんが松江高校卒業で、お顔が全くうりふたつで、思わず笑ってしまいました。

今回の感想ですが、我々は先祖代々の DNA 遺伝子を受継いで、今日、ここに生きている事を再認識しました！　考えてみれば、我々は 20 万年前のホモサピエンスの遺伝子を延々と受継いでいることは、定説です。この事は、我々一人ひとりが大変価値ある存在であり、特に自由で、豊かで、美しき日本に生まれたこと、昭和、平成、令和と平和な時代を生きてこられたことは、人類史上、極めて稀で、大変幸せなことです！

我々は、今、コロナウィルスとの戦いの最中にありますが、世界的に俯瞰すれば、大変に恵まれていると感じます。私は、今年 8 月喜寿を迎えることとなりますが、週 5 回プール通いで、健康維持し、孫たちの成長を楽しみに、応分に生きて行く所存でおります！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 14 相当（山口高校卒）小泉 勝是（長岡京市）

押田先輩 (11) を見習って、毎日の散歩運動を始めてほぼ 3 年が経過しました。押田スタンダードの 9000 歩を毎日達成するのは中々厳しいことですが、5000 歩は何とかクリアできています。

お陰様でそれなりの老化はしつつも、仲間と 7 年間続けてきた子ども向けオモチャ作りボランティア活動に励んでいます。

コロナでかなりのイベントが中止ですが、案外子どもたちから元気をもらっているのではと思うこの頃です。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 14（昭 38 卒）宮原 琢郎（堺市）

堺市にある百舌鳥古墳群が世界遺産に登録されたのを機に、古墳時代を中心とした歴史の書物を読んでいます。今まで考えたことがないようなことや、新しいことが多く書かれており勝手に楽しんでいます。

昨年から堺市博物館のボランティア活動をしていますが、わからないことは、学芸員やボランティア会員から教えていただいております。

健康面では、毎朝一時間のウォーキングをしています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）梅木 隆志（大阪市）

＜新型コロナでお盆連続帰省途絶える！＞

大学卒業後、大阪で就職し、浜松・東京・宇都宮・横浜・広島・大阪と転勤したが、お盆は独身時代・結婚後は家族で、昨年の 73 歳まで生まれ故郷の美保関町に必ず毎年墓参りに帰省していた。

令和 2 年は、新型コロナにより不要・不急の外出を控える要請もあり、51 年間の毎年の行事であったが帰省を諦めた。

その旨を松江市の従兄弟に伝えたら、「正解（しぇいかい）」との返事であった。

毎年の連続帰省ができなかった昨年は、何か特別な一年であった気がする。

新型コロナが終息するのはいつになるのかわからないが、今年は帰省できることを望んでいるところです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）清原 正義（浜田・松江市）

コロナ禍の中で皆様いかがお過ごしでしょうか。私は島根県立大学に務めておりますが、日々、学生に感染者が出ないことを願って過ごしています。

今年の正月は、年末の雪が残る松江で過ごしました。これだけ雪が降った年末年始は松江では珍しいように思います。一方、都市部で感染者が増えたので、他県への移動などは自粛するよう島根県知事の要請がでています。皆様、健康にお気を付けください。

学長に清原氏再任　選考会議

島根県立大の学長を兼ねる理事長の選考会議（議長・久保田章市浜田市長）が4日、浜田市内であり、現職の清原正義氏（73）＝写真＝を選んだ。任期は2021年4月から2年間。最終的には知事が任命する。

経営委員会に加え、教育研究評議会も清原氏を推薦したのを受け、再任が適切と判断した。

松江市出身の清原氏は松江北高卒。京都大教育学部卒、東京大大学院教育学研究科博士課程を満期退学。兵庫県立大環境人間学部教授、同大理事長兼学長を経て17年4月から現職。（板垣敏郎）

2020 年 12 月 5 日　山陰中央新報

高 16（昭 40 卒）佐々木 康雄（富田林市）

遂にその日がきました。四月誕生日の私、免許の更新に先駆け、この歳で避けて通れぬ「後期高齢者認知機能検査」。絶対大丈夫とは言えず終るまでドキドキハラハラの毎日です。

仔犬の時から 17 年つれそった我が家の老犬、（飼い主に似て面長の男前、手足短く胴長）夏までは元気良く朝夕一時間、5 キロを私の散歩に付き合って呉れていたのが秋口から急に足腰が弱り、今ではお互い家の回り近距離を、“犬同志” いたわりあっての散歩となりました。

五十数年続けてきた剣道もコロナでピンチです。自粛が解かれた後も厳しい制限！ 何しろ密も密の競技だけに、そうでなくても息苦しい面の内側に目、鼻、口を覆うプラスチックのシールドを取付け、さらにマスクを着け完全装備。夏は熱中症に注意、冬は吐く息で曇りに悩まされ・・、大声は出すな、お互いの礼や防具の脱着は立ったまま、高齢者は稽古を控えよ（歳を考え、辞めとけ?）。いやはや・・、もう大変！ それでもまあやっていますけど！！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）松本 耕司（枚方市）

新型コロナの巣ごもり下での私の成長！ 一に三食後の食器洗い、二にお風呂の浴槽洗い、いずれもキレイさよりはスピード優先で！ 三には、早寝早起き。“呑めば寝る” という条件反射に磨きがかかりました。コロナ後も続けたいものです。

それから、タケノコ！ 去年は旬の季節に松江の生家に帰ることができず、勿論食べられず、その後、荒れ果てた竹林の整備に 3 回も松江帰りをしました。若い時なら二日もあればと思いながら、手作業の重労働には泣きました。今年は美しくなった竹林で元気なタケノコに会えることを楽しみにしています。すぐに胃袋に入れますが。

それにしても、島根県の新型コロナの感染死者数がゼロというのは、人口が少ないとは言え、嬉しいですね。ふるさとの頑張りにエール！！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）森藤 哲章（橿原市）

後期高齢者へ仲間入りも間近になっていながら、このコロナ騒ぎの中、病院に常勤で勤務し、夜診とそれに引き続いての当直も 1 回／週、担当しております。

マスクを着用してフェイスシールドを傍に置いて診察しています。病院入り口では昼間・夜診を問わず、自動体温計を設置し、看護部長達が寒い入り口で完全防御具を装着して患者さん達のトリアージをしてくれています。

私の場合は、原則予約患者だけの診察にしてもらっています。今なお医師不足の世の中であり、また親しかった亡き友人が大きくした病院・施設ですので引退し難い状況です。

私がコロナ感染でこの世の中からいなくなっても笑わないでくださいね。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 17（昭 41 卒）岡　久夫（神戸市）

＜ 17 期関西松江北高同期会の皆様へ＞

1）コロナ第三波の拡大傾向が懸念される中、収束を願いつつ、お見舞い申し上げます。

2）昨年実施予定をしておりました定例同期会は延期中です。同期会の幹事としては、収束の目処がたてば何とか早い段階で開催が出来ないかと思案しております。

3）私事ですが一昨年より仲間とのオートキャンプにはまり、オリンピック北海道マラソン観戦計画が、今年は実行出来るよう心待ちにしておりますが？

4）一日 8,000 歩･カカト落としで免疫力を高め（笑いも良いとか）て、諸先輩に負けずにまだまだ元気で過ごしたいと思っております。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 19（昭 43 卒）岩田 一志（長岡京市）

＜この頃思うこと＞

昨今、テレビの報道番組を見ていると、街角インタビューで「○○について、どう思いますか。」などの質問に、「社会のためには・・・」とか、「世の中のためには・・・」と回答する人と、「私にとっては・・・」とか、「個人的には・・・」と回答する人がおり、両極端な印象を感じている。

他人のため、社会のために物事を思ったり、考えたりする人と、自分中心に物事を考えたりする人に大別されるのだが、実際的には、場面や条件などによりどちらの立場にもなる人が多いのではないかと思う。

さて、人は「猿→人→人間」と進化して来て、現在は人社会ではなく人間社会が形成され、我々は人と人との関わり、すなわち人間関係の中で生きている。ある書物によれば、人は魂に司られており、生物の「人」は死んでも人に宿っていた魂は次に生まれる生命の「人」に乗り移って行くという。

そして、人の中に宿る魂は、次から次へと世代を超えて、人間関係問題（人類誕生以来唯一解決されていないものと言われ、戦争、争いなど過去の歴史が物語っている。）の解決に向けて、魂（人格）を高揚させ続けているとされている。このことは、全世界各国で継続試行されている「後退（人の前世を思い出させる）催眠」等で、前世の生きざまを確認した事によるとしている。

私は、現在、70 歳を超えて、「青春→朱夏→白秋→玄冬」の最終章に入っており、人生を振り返ってみて何を目的に生きてきたのか、何をしなければならなかったのかなど、若干の記憶背景はあるものの、大半は苦楽も無く淡々と日常生活を過ごしてきたように思う。

今、コロナ禍に明け暮れ人々の気持ちが晴れない中、今生に与えられた目的を達成すべく、周りの人々を癒し、「ありがとう」と言ってもらえるよう、今一度意識した行動をとらなければ、と思うこの頃である。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 19（昭 43 卒）新見 泰朗（伊丹市）

防衛大学校卒業後、陸上自衛隊で 33 年、自衛隊援護協会で 9 年、更に大阪防衛協会事務局で 6 年勤務し、自衛隊との関わりは二分の一世紀を過ぎました。

今年で 72 歳になりますが、もうしばらく松下幸之助氏をはじめとする大阪財界人の呼びかけで昭和 39 年に創設された大阪防衛協会（事務局は大阪淀屋橋）で、国の防衛はもとより新型コロナ等の災害派遣でも活躍中の自衛隊（自衛官）の支援・協力・激励を続けてまいります。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 19（昭 43 卒）池田 喜美代（門真市）

昨年 1 月、新型コロナウィルスの感染が広まり、わけのわからない不安と、どうしようもない閉塞感、焦燥感に打ちのめされた。これからどうなるのかと。それから、私の全ての活動は止まったまま。

今更ながら、友人と出会い、語らい、食事をし、たまにお酒も、笑いあっての交流が、いかに大切で幸福な時間だったかと思い知った。それでも、社会は狭めながらも普通の生活を維持しようとしている。私も気をつけながら、今日もマーケットに行く。

高 20（昭 44 卒）三好 資子（西宮市）

メールマガジンで様々な情報をありがとうございます。

1月4日の NHK の「ファミリーヒストリー」は、とても身近に感じながら食い入るように観ました。

「麒麟がくる」で明智光秀を演じている長谷川博己は、以前から大好きな俳優のひとりなのですが、彼のお父さんが松江高校 7 期であったことや、お父さんのご実家が玉造の「保性館」であることを知り、益々応援したくなりました。

また、童謡コンクールで金賞に輝いた北高 1 年の坂本てまりさんのパフォーマンスを、YouTube を通して聴くことができ、その透明感のある歌声に心が震えました。

これからもメルマガを楽しみにしています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 20（昭 44 卒）山岸 麻里子（大東市）

新型コロナウィルス流行で気の塞ぐ事が多いですが、敢えて良かった事を挙げると

① 30 年近く続けてきた書道にほぼ毎日向き合い、先生に腕が上がったと褒められた。

②家に居る時間が多くなり、ご近所との付き合いが拡がった。

③外出が少なくなり、お金の支出が減った。

④コロナ禍でも、前向きに愉しく日々を過ごしている自分の受け皿の広さを発見した。

⑤高橋一清さんの「松江文学学校」に入校して、一清さんとの素晴らしい出会いがあった。

「疾風に勁草を知る」と言う故事があります。激しい風が吹いたときにどの草が強いか分かるという意味ですが、昨年 102 歳で亡くなった父のように、私は強く且つたおやかな雑草でありたいと願っています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 21（昭 45 卒）野津 一雄（尼崎市）

2020 年は私にとって激動の 1 年でした。

新型コロナは皆さんと同じ環境ですが、それに加えて松江で独り暮らしをしていた 94 歳の母が 4 月に体調を崩し、入院しました。そのため、私と家内は毎月 3 週間は松江で、1 週間は自宅の尼崎で自身の通院や種々の手続きを行うという生活を送って参りました。

コロナ感染防止のため、母の入院中は面会ができないという経験もしました。幸い、母は 5 月の終わりに自宅療養となりましたが、残念ながら 8 月に容体が急変し、亡くなりました。

その後、葬儀や相続の手続き、松江の実家の片付けなどを行い、まだ作業は残っていますが、一段落したことから、やっと 12 月 19 日に自宅に落ち着きました。

来年は穏やかな一年であって欲しいと思います。皆様も良いお年をお迎えください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 22（昭 46 卒）内藤 善夫（吹田市）

誰もが、行動変容を余儀なくされた 2020 年。

昨年は、松江 6 割／大阪 4 割の比率で母親を見守り、郷里で過ごすことの多い 1 年となった。

月 2 回往復して、半世紀ぶりに「松江人」に戻り、改めて「弁当忘れても・・」のたとえどおり、天候が急変する山陰を痛感した。

また、幼馴染の町内会長の誘いで、地域の清掃活動にも数回参加したが、4 月に県内初の感染者の勤務先が、自宅から数百メートルだったことにも驚いた。

穏やかな日々が、少しでも早く戻ることを祈りたい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 22（昭 46 卒）大浦 綾子（西宮市）

すっかりご無沙汰しております。友人知人との会食も減り、子供や孫たちと直接会う機会も激減して、この年末年始も「リモートカウントダウン」「リモートお年始」になりました。

第三波が到来してからは、長丁場を覚悟して、運動不足を解消するために、ついに「エアロバイク」を購入してしまいました。

この状況が一日も早く終息に向かい、心置きなくお目にかかれる日を楽しみにしております。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 22（昭 46 卒）鶴羽 孝子（尼崎市）

新型コロナウィルスの感染拡大により、自粛生活が長く続き、当初は気が滅入りましたが、今はそれなりに生活スタイルと心の持ちようができたように思います。

できないことに思いを巡らすより、今できることに楽しみや喜びを見出していくことが大事だと思うこの頃です。

＜同期の皆様へ＞

昨年 3 月に予定していた「春の集い」は中止となり、毎年恒例の「女性の会」も見送りました。皆さんにお会いできず、とても残念です。

また一堂に会する日が来ることを心待ちにしています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 23（昭 47 卒）松本　潤（吹田市）

25 年前から毎年開催している関西地区同窓会が延期となるなか、何とかお互いに元気な顔を見たい、コミュニケーションを取りたいとのメンバーの強い思いもあって、昨年 4 月から月 1 回 Zoom でのオンライン同窓会を開催しています。

関西はもとより東京、松江、静岡、名古屋から毎回 10 人から 15 人が参加し「元気確認会」と称して約 2 時間、賑やかに楽しんでいます。最近では二人から近況報告をしたあと故郷の話題を中心に情報交換をしています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 23（昭 47 卒）橘　千里（奈良県王子町）

年末年始は孫の面倒見も加わり、毎日の生活で手一杯になります。

ところで、民間調査ですが町の広報紙に、私の住んでいる町（奈良県王子町）が『街の住みごこちランキング 2020』で日本一になったと載っていました。若い時はあまり住宅地の環境に興味がなかったのですが、年齢を重ねると考え方が変わって、鳥の声で目覚め、自然の移り変わりを感じられる環境に、良いところに住んだなと思えるようになりました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 24（昭 48 卒）徳田 完二（京都市）

コロナウィルスは私の勤務する大学も直撃。春の卒業式・入学式の中止から始まり、一定の休講期間を経て、「オンライン授業」なる、かつて経験のない形で仕事をする羽目になりました。

その後、一部の授業は、手指の消毒、マスクの着用、アクリル板越しの講義という違和感たっぷりの中、対面で行っています。

でも人間、慣れるものですね。最近はマスクをせずに道を歩くことに違和感を覚えるようになってしまいました。

高 24（昭 48 卒）小川 ひとみ（加西市）

私の住む加西市には年に一度、ハンセン病患者を収容隔離していた長島愛生園への訪問研修があります。今まで機会はありながら一歩踏み出せずにいたのですが、コロナ禍の中、今年は参加しました。

見えない細菌、そして世間からの偏見と闘いながら隔離された島でほぼ人生の全てを送られた 80 代後半の元患者さんの話を聞き、そのご苦労は想像を超えるものでした。

このような事が二度とあってはならないと心から願いました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 24（昭 48 卒）河村 敦子（西宮市）

この一年間は、ずっと閉じこもっています。
住んでいるのは西宮ですが、大阪にも神戸にも行っていませんし、松江に帰って両親と会うことも、東京にいる息子に会うこともありません。

しかも、夫が有料老人ホームの経営に携わっていますので、家族としても、特に行動制限は厳しくなっています。小さな楽しみは、NETFLIX・YouTube・U-NEXT になりました。

早く日常の生活が戻りますように・・・・。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 24（昭 48 卒）瀬戸口 二三子（京都市）

お陰様でシニア世帯の我が家、元気に新年を迎える事ができました。コロナ禍の中、「３密ではない」と畑や山歩きはできましたが、東京在住の息子家族とは直に会えず、孫ともビデオ通話のみ。それでもありがたいですね。

今年は家族・友人・仲間と普通に会える年になりますように！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 24（昭 48 卒）水野 順子（宇治市）

静かなお正月を迎えようとしています。
今年からオカリナ教室に通い始めたので、幸か不幸か、練習時間がたっぷり。認知症予防にたまに健康麻雀。テニス、ゴルフ、山歩き、孫守と、なぜか娘から預かってしまった犬の散歩。

健康と年金暮らしに感謝して、過ごしています‥が、早く水戸の息子一家に会いたいです！

高 25（昭 49 卒）小林　宏（吹田市）

今年は帰郷も控えて静かに新年を迎えました。

年末にたまたま見つけたラトビアのお店で買った石鹸がお気に入りで、毎日お風呂で楽しんでおります。

＜※編集注＞ラトビアは石鹸で有名です。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 30（理 9）（昭 54 卒）千葉　潮（安来市）

＜同期の皆様へ＞

お元気でいらっしゃいますか。昨年は私たちの学年も丁度還暦にあたりました。通常年ならば同窓会を開くのでしょうが、コロナウィルスの感染拡大を受けて、軒並み同窓会は中止、それどころか、普通に会って食事を楽しんだりすることもとりやめてしまい、友人の皆様の動向は、Facebook などの SNS で知るばかりです。

私は 2019 年から拠点を安来市の実家に移し、2020 年 4 月から、安来市加納美術館の館長を務めています。仕事を大阪と安来の 2 拠点で行う計画でしたが、島根にこもりきりです。その代わり松江や出雲には仕事にかこつけて足しげく通うようになりました。ペーパードライバーも返上し、いまは通勤しながら故郷の四季を楽しんでいます。今の季節(1 月です)、冠雪の大山と田んぼで休む白鳥を同時に見たりできる、故郷の眺めは素晴らしいです。

職場の安来市加納美術館は、足立美術館から車で約 15 分の所で、安来から奥出雲に向かう途上の安来市広瀬町布部にあります。今は平和を求め続けた画家加納莞蕾ゆかりの美術館として、加納莞蕾の作品をはじめ、地元ゆかりの美術家の作品を収蔵しています。また、備前焼のコレクションで知ってくださる方も多いのです。

昨年はコロナのおかげで就任直後の 2 か月は休館していました。今は、改修工事のためやはり休館。2021 年の 6 月半ばから再開しますので、今はその準備に忙しくしています。

9 月半ばからは、アニメ「この世界の片隅に」の原作マンガの原画展（こうの史代さん作）を計画しています。アニメの主題歌は、16 期の三吉孜さんの娘さんのコトリンゴさんが歌っておられますので、何かご縁も感じているところです。

早くコロナウィルスが収束してほしいと、皆さんと同様に願っております。改めて還暦同期会も持ちたいものですね。そして、帰省やご旅行のおりにはぜひ当館にいらしていただきたいと首を長くして待っております。とにもかくにも、皆様のご健康をお祈りするばかりです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 35（昭 59 卒）冨岡 幸子（寝屋川市）

初めて投稿します。皆様にはいつも大変お世話になっております。

去年はいろいろな出来事がありました。実家島根に通う必要もできて 2 ヶ月に 1 度は行っていましたが、コロナ禍で行けなくなりました。

自粛期間に時間ができたので、自分の身体に向き合うことにしました。病院、整骨院、エステ、自宅でのストレッチ、娘とのウォーキング、食事管理、早寝早起き、身体にいいと言われる事はできる限りすべてとり入れました。そして半年で改革大成功。別人と言われるくらい身体が軽くなり、そして健康になりました。

一念発起、念願だった息子とサッカーする事を夢みて、大人のサッカースクールにも通い始めました。最近は念願かない息子と一緒にサッカーができるようになりました。この年になって、ボールを追いかけられるようになるなんて、夢にも思いませんでしたが、時間ができた事で、時間をつくる事ができるようになりました。

仕事もお陰様でとても順調です。これからもご縁を大切に、一期一会を思いっきり満喫したいと思います。

皆様に、家族に、自分の身体に感謝です。ありがとうございます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 42（平 3 卒）三好 博子（枚方市）

私の勤務する旅行会社は、コロナで 4 月は休業、私は 4 月～ 8 月まで自宅待機でした。9 月から GOTO トラベルの影響で、色々振り回されていますが、毎日忙しくしております。

プライベートでは、エントリーしていた 3 月の名古屋ウイメンズマラソンが中止になり、神戸マラソン、大阪マラソンも中止、今年初めてエントリーしようと決めていた国宝松江城マラソンも中止になり、モチベーションは下がっていましたが、今はオンラインマラソンに参加して、来年の為に頑張っています。

「ボランティア活動10年間を終えて」

―奈良国立博物館解説ボランティア―

伴　稔也（9期）

1．はじめに

新聞の片隅に「ボランティア募集」の記事を見つけて応募し、面接後採用されました。

その直後から事前講習があり、当館で展示される仏像、仏教絵画、経典、仏教法具・法衣等、こんなに広い範囲に及ぶのかと思うほどの知識を詰め込まれました。

「一体の仏像から伝わる事柄は 20 件以上あると心得よ」・・名称の由来、製作時期、髪型、材料、製作者、補修状況、着衣、仏像の履歴、等々・・。加えて、正倉院展、お水取り展、誕生中国文明展、天馬（ペガサス）展、など特別展のデスクにも座ることがあり、殷王朝からギリシャ神話まで広範囲の知識が必要とされ、資料室、図書館通いが続きました。

2 年目くらいから少し落ち着いてデスクに座れるようになりました。

しかし、「こんなこと、知らんのか、学芸員呼んで来い!」とか「前に来た時のガイドと説明が違う」とか、図録の間違いを指摘され、すぐに修正せよ、と言われたこともありました。大切なことは、知らないことは、知りませんとはっきり言うことだと体得しました。

そのような日々の中、印象深い出来事がありました。

2．仏像館での出来事（1）

ある日の夕方のこと、中年の女性が入館されて、仏像一体ずつに立ち止まってじっと合掌しながら巡回されていました。デスクにいた私と目が合うと、私の方に歩いてこられ、

「仏さまにも役目のようなものがあるのでしょうか?」

「ええ、あります、身近で分かり易い仏像をご説明しましょう」と薬師如来像のところへご案内し「病気を治すのにお祈りする仏さまです」と。すると、じっと合掌されていました。

一分間ほどの長さなので、その後の説明も長引きそうだなと思いつつ「何かほかにお望みの仏さまはありますか」とお尋ねしたのですが、沈黙数分・・。

デスクへ引き返そうと思ったその時、ポツリと「三年前、病気で子供を亡くしました」

どう対応したらよいのか・・。戸惑いながら地蔵菩薩コーナーへご案内しました。

「子供さんを救ってくださる仏さま、地蔵菩薩です」

その方はまた一体一体に合掌されています。

私は、口から「この仏像は、○○時代に作られ、材料は・・」「手の持っているものは・・」「展示されている仏像は、魂が抜いてある・・」とか出そうに、いや、喉まで出かかったのですが、その方はじっと手

を合わせ続けられています。私もつられて黙って合掌。

数分の後、「一緒に供養していただきありがとうございました」と、私に向かって・・。

「お宅の近くにもお地蔵さまはたくさんあると思いますよ、路の角にも石のお地蔵さまをよく見かけますし、もちろん、ここへ来てくださっても・・」

「ありがとうございました。これからそうさせていただきます」とすっきりとした表情で帰ってゆかれました。

この間、約 20 分間ほど。不思議な時間を体験しました。解説ボランティアとしてこれでよかったのか。ちょっと目が覚めた感じがしました。

3．仏像館での出来事（2）

2 月のある夕方、もう誰も来ないな、と思って帰り風が吹きかけていた。そこへ一つの足音が入ってきた。その日はちょっと勝手が違った。まず普通のテンポで部屋を一周された後、後戻り、横歩き、小走りなどガサガサと数人分ほどの足音が続いた。

ふと目を上げると、コートを着た 4 ～ 50 歳の男の方と目が合った。「何かお気付きのことがあればご説明しますが・・」と私。

「部屋に入った途端に、この仏像に引き付けられてしまい、どこの角度から見るのが一番魅力的かと、歩き回りました・・・」

「他の仏像は、どこかで名前を聞いたことがあるのですが、この降三世明王に初めてお会いして、何か妙に胸にぐっとくるものがありまして・・・」

「明王と言えば、不動明王のみかと思っていました」

私の知識の範囲で、簡単にご説明しましょう。この像は降三世明王坐像（ごうざんぜみょうおうざぞう）といい、河内長野市にある金剛寺というお寺のご本尊大日如来の脇侍で、本堂の修理に合わせて、当館

に持ち込み修理した後の展示です。重要文化財です。（修理時の発見により、ご本尊と合わせて国宝に指定）

降三世とは、三界の王・シヴァ王（ヒンズー教の神）を降伏させた明王です。ですから、かなり霊力の強い仏様で、過去、現在、未来の三つの世界にはびこる三毒、瞋（しん）・貪（どん）・痴（ち）と呼ばれる煩悩を克服しようとする姿を現しています。

「瞋は、怒りで、貪は、むさぼり、は解るのですが、痴というのは?」

痴は、おろか、愚痴というほうが良いかと・・

「つまり、この明王は、怖い顔でこの三毒を懲らしめるということですか?」

むしろ、私は、自分の中に生じる三毒を克服しようとすれば、このような形相になる、その葛藤に打ち勝つのは、並大抵ではないですよ、ということを表している・・、打ち勝てば、菩薩や如来のような表情になれます。と解釈するほうが・・。

「そうですね、私も仕事中、生活中、何していても、三毒が心に湧き上がってくるのがしょっちゅうです。それをなんとか抑え込もうと思ってはいるのですが」

お仕事を聞いてもよろしいですか?

「病院で医師をやっています、対患者さん、医師同士の間で、また、上下関係の中で、三毒の話が飛び交っていますね、しかし、少なくとも患者さんとの間には、無くしたいものです。どのようにしたら三毒を降伏させることができますか?」

こう聞かれたら返す言葉がない。すぐに答えられない。他にどんな明王がありますか?と問われれば、他に「不動明王」「軍荼利明王」「大威徳明王」「金剛夜叉明王」とすらすらと言える準備はできているのに・・。

仕方がない、「その答えがわかっていたら、わたしの顔は、この前の展示室で鑑賞された「菩薩」様達のようなお顔になっていますよ」と。

「そりゃそうですね、もし解っていても、他人には言えませんよね」

私の顔が歪んでいたかどうかは知りませんが、「私は、今新人研修医の教育を担当していてカリキュラムの中に、医者としての心構えというのがあり、ぜひ仏像館見学を入れたいと思いますが、引き受けていただけますか?」

奈良国立博物館

もちろんです、前もって予約していただければ、解説員一同喜んでお迎えさせていただきます。とは答えたが、そのような場面で仏像が役に立つ、ということにびっくり、併せて、当日、私の担当日に当たってほしいような、当たってほしくないような気分だった。

4．終わりに

10 年間、原則週 1 回、手弁当で勤めました。この間に得たものは、知識が増えたこと、今までと違う経験を持っているボランティア仲間と付き合えたこと、などありますが、やはり一番は、多くのお客様とのご縁だと思います。

10 年間で、ざっと見積もっても 3,000 人を超す方々との対話、雑談の中から、その方の経験、想い、生き方、環境によって、3,000 通りの仏像への接し方、理解の仕方があることを知りました。

5 年経った頃からは、今日が、また新しい方とご縁ができるかと、ウキウキワクワクした気持ちで過ごすことができました。

現在でも 20 人を超す方々とご縁をいただいていて、私の大きな宝物になっています。

（生い立ちなど）

昭和 14 年東京生まれ、松江で附小、附中、松高で学び、金沢大学工学部を卒業、大阪ガスに入社し専ら都市ガスの製造に従事する。65 歳で退職。

奈良県に住みながら、地元に何も貢献していないとの反省から、奈良国立博物館に 10 年間、解説ボランティアを続け、現在は、万葉文化館でボランティア（現在はコロナ禍で休業中）をしている。

小学 3 年時、図工の先生から木版画を褒められ、爾来 70 年、「仏像の美を版画に写す」をテーマに版画を続け、奈良県美術展で 10 回入選する。地元で、妻（洋画）と「ふたり展」を隔年に開催し、令和 2 年 3 月、9 回目を終えることができた。

奈良県美術展版画入選

「松江の地名の由来は何ですか?」

佐和田　丸（10期）

私は以前から、「松江」の地名が中国伝来の地名だと喧伝されていることに、釈然としないものを感じ、真相はどうかとあちこち調べたりしていた。古くからある有力な説は観光誌などによれば、大体、次の三説である。

（一）『懐橘談』『雲陽誌』という江戸期の地誌によるもので、松江城を築いた堀尾吉晴が、松江の風景が湖面に美しく映え、鱸 (すずき) や蓴菜 (じゅんさい) を産するところが中国浙江省の淞江府 (ずんこうふ) に似ているとして命名したという説。

（二）新井白石の著『紳書』によると、堀尾氏の家臣で松江城の縄張工事にあたった小瀬甫庵 (おぜほあん) が「鱸の名所也」として命名したという説。

（三）『雲陽大数録』では圓成寺（堀尾氏三代の廟所）開山春龍和尚の命名とし、「唐土ノ松江、鱸魚ト蓴菜ト有ルカ故名産トス、今城府モ其スンコウニ似タレバ、松江ト称ス云々」と記されているという説。

そして、昭和 53 年 (1978) には、島根大学の入谷仙介教授も地元新聞に、命名に苦心していた堀尾吉晴が、渡明の経験のある春龍和尚の進言もあって「松江」を採用したのではないかという推論を発表されたりしていた。

私が関心を持ち始めたその頃、平成 10 年（1998）、和歌山であの毒物カレー事件があり、現場の近くに「松江地区」があると知り、角川地名辞典で調べてみたら、昔は松林に囲まれた美しい入江で、名前もそれに由来し、今は埋め立てられ広大な日本製鉄和歌山製鉄所となっている、とあった。

私はその時、和歌山でそうなら、古代からの人間の営みの盛んなわが「松江地帯」にも、昔から「松林に囲まれた入江」があって、「松江」と呼ばれていたと考えるのが、中国伝来の地名よりはるかに自然ではないかなと感じたが、そのまま今日まで来てしまった。

最近になって漸く郷土史家の先達である藤岡大拙氏が、『松江』の地名は開府以前からあったという論考を「松江開府 400 年　松江藩の時代」（平成 20 年山陰中央新報社）の冒頭に掲載されていることを知った。既にその前の平成 13 年 3 月には「湖都松江」創刊号の特別稿に「椿説 松江地名考」として掲載されていたことも。

それによれば、「天文 3 年（1534）、越前福井の人、大森正秀が出雲大社参拝の旅を「出雲紀行」として著わしている中で、“出雲の松江の府に至ったら、そこの錦浦は磯馴松（そなれまつ）生い連なる美しい風景であった” と記している」とのこと。

藤岡氏は、「松江の府」はおそらく意宇川の河口あたり、「錦浦」は出雲郷の南岸あたりではないかと推論され、その 70 年後の松江開府時に、堀尾吉晴はその狭い地帯の地名の「松江」を、末次、白潟二郷を含む広い地帯の地名に拡大して採用し、それが中世から近世の松江への転換点となったと論考しておられる。

私には、藤岡氏の、少なくとも松江開府の 70 年前には（もっと前からかもしれない）、「松江」という地名が狭い地域であったにせよ存在していたという史実に即したこの論考は、和歌山の松江を知って以来、疑問に思っていたことが氷解して、おおいに納得するものだった。

考えてみれば、当時は中国の地名を拝借したとする方が確かに重みがあったのかもしれないが、私はこの藤岡氏の説も（四）番目に加えて観光誌などでも紹介し、これからの研究、歴史の評価を待てばいいと思う。

出雲人である私は、この（四）が一番腑に落ちるが皆様はいかがであろうか。

「７９才の正月を迎えて・・」

田中　一男（１１期）

（１）野球とソフトボール

松江の新大橋南詰めにある氏神さんの境内で野球を始めました。

当時のボールは軟式のテニス球で、三角ベース。町内の上級生に色々と教えて貰いました。白潟小学校６年生になり、野球部ができて入りました。軟式のボールでしたが、市の大会に出場して準優勝。そして、松江三中でも野球を続けて市の大会を勝ち抜き県大会へ・・!、16 チームが出場し、準決勝で惜敗・・・三位でした。

松江高校では部に入りませんでしたが、野球は好きで昼休みのソフトボール遊びが楽しみで、いつもグランドの取り合いでした。

そして大学でも１年半程、硬式野球を経験し、社会人になり現在の住所（京田辺市）へ移転してから町内会のソフトボールクラブを作り、日曜日に近隣チームとの試合を楽しみました。

私達のチームには野球の経験者が多く、市の代表として京都府大会へ数回出場しましたが、選手の高齢化と共に人数が減り、40 年続いたチームは数年前に解散となりました。

（２）ハイシニアーチームの監督

町内会チームの監督をしている時に、隣市（枚方市）のソフトボール連盟のＡ氏と知り合いました。この方の尽力で中高年・高齢者のチームを作るので、協力して欲しいとのこと。壮年（40 才）・実年（50 才）・シニアー（60 才）・ハイシニアー（68 才）の４つのクラスに分け、夫々試合をするものです。

早速、壮年チームでセカンドを守り、１試合で３つのダブルプレーをするなど好成績を上げ優勝しました。

そして、年齢と共に実年チーム・シニアーチームへと移ってきました。しかし、ハイシニアーは選手の人数が少なくなかなかチームが作れません。そこで、Ａ氏と人集めに努め何とか 15 人位になり、併せて監督を引き受けました。

しかしながら選手登録ができても、試合日に人数が揃うかは、又、別問題です。足が痛い・腕が痛い・腰痛等はいつものことです。とはいうものの、試合に来てくれた選手は元気に活躍され、秋の大会では見事に優勝しました。令和３年の大阪府大会の出場権を得、３度目の府大会出場なので今回はベスト４を目指して頑張ります。

2019 秋・ハイシニアー優勝（前列左から三番目）

（３）終りに

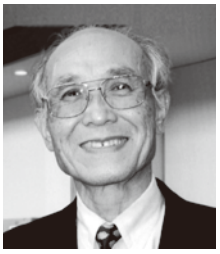
健康寿命を維持するために、１日 8,000 歩を目標にウォーキングを継続中です。

又、会社の先輩の一言にも励まされ、「きょういく＝今日、行く」と「きょうよう＝今日、用がある」も実践しています。前者は会社ＯＢ会の行事、釣仲間との船釣、大学時代の仲間との懇親会等に参加。後者は地域の防犯推進委員を 17 年間続けながら、自治会の皆様と一緒に月４～５回の町内パトロールを　実施し

ています。

毎年１月３日は、京田辺市恒例の甘南備山（220ｍ）登山です。市長以下沢山の市民・家族連れも参加し、頂上からは比叡山も望める楽しい登山なので初めてトライしました。

「コロナ禍の春～熱暑の夏～そしてWithコロナの秋へ・・・今、思うこと」（近況に添えて）



2020.9.21 記

山本 輝夫（１２期）

まずもって、来年（令和３年）母校創立 145 周年の節目を迎えると知り、この間に幾多の有為の人材を世に送り出してきた偉業に改めて敬意と感謝を。双松会員として末席を汚す身にも大変誇らしく思っています。おめでとうございます。

この光輝ある伝統に甘んずることなく、少子化時代に相応しい新しい風を吹き込み、憧れの存在であり続けてください。益々の弥栄と、学生諸君と教職員の方々のご健闘を祈念し、エールを送り続けます。

◆＜新型コロナ＞の初声には、一瞬愚息が勤めるカーメーカーがモデルチェンジした新車発売か!?・・と、トチッタ事も今は昔。“３密”の巣ごもり生活にもやっと慣れた頃、熱暑と熱帯夜続きの毎日。ジムも休業でもっぱら京都御苑内ウォーク(8 千歩)の日々。メリットは絨毯状の芝生の上もさることながら、玉砂利、樹木（5 万本）の古木の根っこがコブ状に浮いた部分、苑内と遊歩道を仕切る凸凹の河石（自然石）は、足裏に格別の刺激でヤミ付きに（足裏は第二の心臓なので)。皇宮警察車輛に見守られつつ、五感に貯まった錆落としにもなったのでは?とも。

ジム再開（7 月～）後はマスク着用､ソーシャルディスタンスに配慮、会話禁止と、唯一の癒しは、プールでの泳ぎ。街なかへの徘徊もままならず、読書を精神安定剤に。

◆常々、「歌は心の食べ物」と信じる身。心に響く名著との出会いも。中で、ＮＨＫＴＶ朝ドラ「エール」の主人公を描いた『古関裕而と流行作曲家 激動の日本』を印象深く読了。商家を継ぐべく福島商業に進学するも、作曲への道を諦め切れず、独学で生涯５千曲を。

甲子園大会歌♪栄冠は君に輝く、大阪タイガース応援歌♪六甲おろし、古くは出世作♪露営の歌、♪高原列車は行く、鐘の鳴る丘の主題歌♪とんがり帽子、♪長崎の鐘、現在も親しまれているＮＨＫラジ

オ♪ひるのいこい、のメロディー、♪野球中継のオープニング曲、などなど。

幼い頃から馴染んだ曲（ＴＶのない時代にラジオから流れる歌声、メロディー）は、会員諸兄姉も今でも口ずさんでおられるのではないでしょうか。

氏の明るく軽快で、かつ力強く元気の出る曲は、♪紺碧の空（早大）、♪我ぞ覇者（慶大）、の応援歌・校歌・自治体歌等でも 300 曲以上。極めつけは、1964 年の♪オリンピックマーチ。古賀政男、服部良一両氏と並んで、昭和の三大作曲家と称される由縁。

名前は知らなくても作られた曲を歌ったり、聴いたりしたことのない人はいないと思われる程、偉大な天才作曲家。“元気”が欲しい今こそ、心に沁みる人生の応援歌だと思う。没後、「国民栄誉賞」も打診されたがご長男が辞退されたとの裏話も初めて知り、少し残念な気持ちに・・。

◆＜コロナ禍に翻弄される毎日にあって、朗報に心ときめかせる快挙＞も。将棋の藤井聡太君（18）の二冠と、大坂なおみさん（22）の全米ＯＰテニス２年ぶりのＶ。大相撲、正代関（28）の初Ｖと大関昇進。遅咲きの大輪の花が同時に二つも開花。熊本勤務の経験ある身には喜びもひとしお。熊本の皆さんオメデトウ!

特筆すべきは、水泳の池江璃花子さん（20）の白血病復帰後第一戦のインカレ 50 メートル自由形で、自己ベストのタイムで４位入賞には、感激し思わず涙。

我が家的には、孫の日銀内定。国の経済の舵取りの重責がいかほどのものかは知る由もないが、かつては仰ぎ見る存在で、住む世界が違う人たちと感じていただけに、感無量。イギリスにいる孫（大 4、高 3）の本格帰国にも一縷の望みを抱きつつ、敬老の日には、孫たちに向かって【百歳挑戦宣言!!】をした。

◆＜大ショック＞は、国民的スーパースター、俳優の渡哲也さん（78）の死。同い年に加え、里帰り出産のため、お母様の実家“島根”で誕生されたと知り、言葉に表せない程に落ち込んだ。ひたすらご冥福をお祈りします。（合掌）

◆去る４月には、コロナの一日も早い収束を祈願に、スサノオノミコト他２祭神を祀る八坂神社「茅の輪くぐり」に。今夏は中止となった祇園祭の「粽（ﾁﾏｷ）」に書かれた言葉（護符に「蘇民将来之子孫也」）。これを戸口に飾っておくと疫病が家内に入らないとされ、京町屋の戸口には飾られる。当然、我が戸口にも。

◆年明け（令和３年）からは、コロナワクチン接種の可能性も！　愚息が勤務するイギリス・オックスフォード大と大手製薬メーカー・アストラゼネカの共同開発したワクチンは日本に６千万人ぶんを供与で基本合意とのマスコミ報道も。しかも無償化に向け政府も予算化。With コロナはワクチン接種から・・。

直近報道によれば世界のコロナ死亡者「1 千万人超（日本は 1,500 人超）」と。あと２～３年コロナ禍は続くとの専門家の見方も。飲み会、遠出は自粛で資産寿命は少し伸びそう?

＜※編集注＞ 2021 年３月 25 日現在：
世界の死者 2,743 千人、日本の死者 8,983 人

ＮＨＫラジオ深夜便の石澤典夫アンカーの名セリフ“二度と来ない今日という日を大切にお過ごし下さい”を心で復唱しながら、一日一生で今日も生き（＝息）よう・・。だんだん。

◆最後に、作家・五木寛之氏の「三密法話」をご参考までに。『三密』とは、もともと仏教の言葉で、“身口意”と言って、【身密（身体）、口密（言葉）、意密（心）】の三つの密を追求するために修行することが、弘法大師が説いた真言密教の教義。

「ソーシャルディスタンス」「三密を避けろ」と言われるが、「三密を避ける」とは、結局のところ、「孤立せよ、他人に近づくな」という「人間疎外のすすめ」に他ならない。

「モンゴルの人達から見た東日本大震災のうら話」

安部 正毅（13期）

1.プロローグ

最近の読売新聞の一面に「福島第一 2・3号機設備 高い線量」という記事が載っている。2011年3月11日は福島を中心に東北地方を大地震とそれに伴う津波が襲い、福島県民が16万4865名被災した。今年はそれから10年を迎える。私自身1995年の淡路神戸地震で被災した事もあり、人ごとではない思いがする。丁度10年前の地震の時、私はモンゴルの仕事をしていた。10年目を迎え当時を思い出しながら当時のモンゴルを回想してみたい。

私は2009年3月よりヨーロッパ復興銀行（EBRD：本部London）のメンバーとしてモンゴルで活動しているEBRDの14のプロジェクトの一つについて、プロジェクトリーダーとして活動していた。よくNPOの活動と間違えられるが、私自身が開発援助国で井戸を掘ったり、木を植えたりする仕事ではなく、私の任務はその国の産業を興すマネージメントの援助である。

私はモンゴルの基幹産業であるカシミヤ産業を担当し、カシミヤ、キャメル等を原料とした製品の製造技術の確立、製品開発、品質管理、設備計画、エネルギー管理、環境保全・整備、製品流通部門の整備、マーケテイング等を任務とした。

私はこの仕事につくまでは、モンゴルについてジンギスカン、蒙古斑、朝青龍、旭鷲山くらいしか知らなかった。それがある日突然ウランバートルの空港に降りたつことになった。時期は3月中旬、日本ではどことなく春が感じられる季節。ウランバートル国際空港はモンゴル国で最も大きい空港だがターミナルの規模は神戸空港位であるのに、滑走路は成田空港の2倍以上、駐機場には空軍機が見られ軍用にも使用されている。今後の発展を期して、現在日本の開発援助でウランバートル近郊に第2の空港を建設中である。

迎えの車に乗ろうとしたら通訳氏から「手袋をするように」と注意された。素手で車の取手を引くと皮が取っ手に張り付き、手の皮がむけるからと注意された。彼の話では、今朝の気温は－25℃、日中の最高気温は－10℃くらいで暖かいという。油断をした！手の皮膚がはがれてはたまらない、言われたとおり手袋をはめる。「何でも知らない土地ではとりあえず素直に従うのが良い」というのが海外での私の考え方。

飛行場の建物を出ると、だだっ広い駐車場に車がびっしり駐車している。ほとんどが乗用車でバスは見あたらない。60％位はランドクルーザータイプだ。モンゴルでは車の生産はされていないので全てが輸入車。しかも中古車がほとんどと聞く。世界中のメーカーの車が駐車している。やはり日本車が多い。日本のビッグ5社製はすべてある。その他ではヒュンダイ（韓国）、VW（独）、BMW（独）などが目につく。

迎えの車はVWのランドクルーザータイプで車高が高く見晴らしがよい。道路は全く雪がなく氷も見られない。気温が低く雪が一日中溶けないため氷にならないのだという。後で聞いたが、「この国では冬でもノーマルタイヤのままでよい、雪は粉雪で風に飛ばされてしまうから平地では積もらないからだ」そうだ。空港からウランバートル市街までメイン道路のはずだが、あちこちに舗装が壊れて穴があり、車はそれを巧みによけながら結構なスピードで走る。

中国の高速道路でもものすごいスピードで走るが、中国の高速道路は日本の高速道路以上に整備されていて、走行中の車は100ｋｍ/ｈ以上でカーチェイスのように走る車をすり抜けて走る。しかしここは道路の穴ボコという関門があり穴ボコをよけながら且つ、走行中の車を追い抜く。当然対向車線にはみ出すのは頻繁で、まるで車の流れの中を泳ぐようにクラクションとライトの操作で衝突を避ける。とても私は目を開

けておれない。時には道を外れて路肩の土煙を上げることもある。華奢な車では持たない。サスペンションのしっかりしているランドクルーザータイプが適しているのが判った。

ここでも質問「なぜこんなに穴ボコが多いのか?」運転手君曰く、「中国の援助で舗装しているが、土の上にアスファルトを敷くだけなのですぐに穴になる。郊外の日本の会社がやってくれた道路は 10 年経っても大丈夫だ。」と返事が返ってきた。

空港からウランバートル市街までは 45 分位の道のりだ。空港を出るとすぐに草原の中の道を走る。時々馬や山羊や牛の群れが見られる。放牧といっても囲いが有るわけでなく、放し飼いに近い。どうして自分の家畜と他人の家畜と区別するのだろう? 突然車が止まった。牛の群れが道路を横切っている。人は見あたらない。勝手に牛が移動しているのだ。ほとんどの牛が道路を渡りきっても私たちの車は動かない。なんと一頭の牛が道の中で用を足しているではないか。オシッコが湯気を立ててアスファルトの上を流れてゆく。日本で−20℃くらいではオシッコはたちどころに凍ると聞いていたがあれは嘘だ。やはり流れた。

発電所から直径 50 ㎝位のパイプがウランバートル市街に伸びている。暖房用蒸気を送るためだ。

市街地への暖房用蒸気パイプ

2.日本で地震発生と津波発生の知らせ

3 月 11 日に日本で恐ろしい事が起こった。後日ウランバートルを訪問した時、工場の人は私に「モンゴルでは NHK が見られるので逐一被災の状況はこちらにも伝わっている。TV のニュース画面を見て、モンゴルの人たちはポカーンとして「映画を見ているようだ」と思ったと言う。彼らは地震を経験したことはないし、生まれて今まで海を見たことがない人達だ。いくら私が説明しても、所詮彼らは頭の中であれこれ想像するだけ。ただ自動車は日頃からなじみ深いので、自動車が津波に流されるのを見て、その怖さの実感がわいたようだ。

一方日本では、私が作業している会社の運の悪い社員がいた、それが 6 名も。彼らは 3 月 4 日〜 10 日まで仙台市近郊の工場で実習を受けていた。11 日は予定の実習が終了し帰国の日だった。彼らは楽しい思い出を抱きながら工場で最後の昼食をとった後、仙台駅に向かうべく食堂を出た。まさにその時地震が起きた。後で聞くところ、その時の彼らの驚きは筆舌に尽くせない。「なんだ!なんだ!」、「地面が動いた、立っていられない」、「もう俺死ぬ」と思ったと彼らは言う。

幸い工場は山地にあり彼らは津波には遭わなかった。津波にあったらどんなに怖かった事だろう。地震のため楽しみにしていた新幹線や飛行機は使えず、社長が機転をきかせすぐに工場のワゴン車を出し、社長も同乗し一緒に宮城、秋田から山形へ抜け、東京にたどり着いた。その間ひっきりなしに余震が襲い、彼らは生きた心地がしなかったという。

モンゴル航空は直ちに成田からウランバートルに特別機を飛ばした。もちろん無料。それにより彼らはウランバートルになんとかたどり着く事が出来た。彼らは本当に心から幸運を喜んだ。それ以来工場で何かあるといたずらに私が「ちょっと日本に行ってもらおうかな」と言うと「勘弁してください」と逃げ出すようになった。

モンゴルの人々は元々親日家が多いし、日本人を

尊敬もしてくれている。例えば 2004 年 10 月に発生した新潟県中越地震に対し、発展途上国であるにもかかわらずモンゴル国の政府は毛布 520 枚を支援したほか、義援金 600 万円。1995 年の阪神淡路大地震の際にはモンゴル政府は毛布 2,000 枚、手袋 500 組を支援している。

2011 年の東日本大地震に対してモンゴル政府の対応は早かった。12 日には、いち早く全公務員に給料一日分を救援物資とともに支援するよう呼びかけた。私の関係する企業では従業員から一日分の給料と会社から 3,000 万円の義援金を支援した。その他、日本では悪役の元横綱の朝青龍（ドルゴルレン・ダグワドルジ）も自らはもちろん国中に義援金の支援をよびかけている。デパートは翌日には義援金箱を入り口に設置、子供が貯金箱をもって来たり、数 10km を馬で義援金を届けに来た人もいる、その他多くの企業や民間人が救援を申し出ていた。

支援企業で元横綱朝青龍と面談

日本国内では法務省が管轄する全国の刑事施設に収容されている受刑者など、およそ 2,800 人から、東日本大震災の被災者に対し、2,100 万円以上の義援金が送られた・・などのニュースは、彼らの思考の物差しでは計れず「オー」と両手を広げるしか答えられない。

日々、NHK で報じられる被災地の人々の態度に対しても、彼らは驚きをもって、「被災の日本人の人々の振る舞いはすばらしいと思うが、とても我々にはできない」とつぶやいた。被災した日本人の行動を見ていると、「欧米人や自分たちの自己主張の行動が醜い事を実感する、ますます日本人が好きになった。」という声が多かった。

残念ながら、これらの事はどうゆうわけか日本で報じられたとは聞かない。

3. むすび

今回の災害は地震と津波、さらに原子力発電の事故と三つの災難が重なった大きな災害とはいえ、当時の海外でのニュースは原発のことが多く発信され、しかもかなり誇張・偏っていた。その事が安全な国日本から危険な国日本へとイメージを変えつつある。

海外の人は発信された情報からしか判断できないので、発信側で注意しないと間違った意識を与えてしまう。近隣でも韓国や中国など海外では、当時の日本は国家の非常事態状態にあると捉えていて、極端な報道のせいで、北海道から九州まで放射能汚染が広がっていると思い込んでいる人もいる。中には放射能に対する知識も希薄で風邪のように人に伝染すると思っている人さえもいる。

モンゴルでは、現地のある人は次のように言った。「原発のような危険な装置に『想定外』という概念があるのは理解できない。まして日本は地震が多い国であることは世界中の人が知っている。

「津波」という言葉が世界で通用するほど日本の災害の話では頻繁に話題になる。当然どのような事が起こっても問題が起こらないように設計すべきではないのか。それを不十分に想定して原発を作る意味が分からない。モンゴルには原発は無いけれど、今まで大きな事故は起こっていないからという経験から想定された物はいらない」という言葉には返す言葉がない。技術者としては耳が痛い。

心まで冷えてきたのはモンゴルの寒さのためではなさそう。オー寒い！

「汽水湖（宍道湖・中海）地帯礼賛」

三吉　孜（16期）

（シュピーゲル写真家協会会員
その他、JPS（日本写真家協会）公募展入賞、
川西市展一席など）

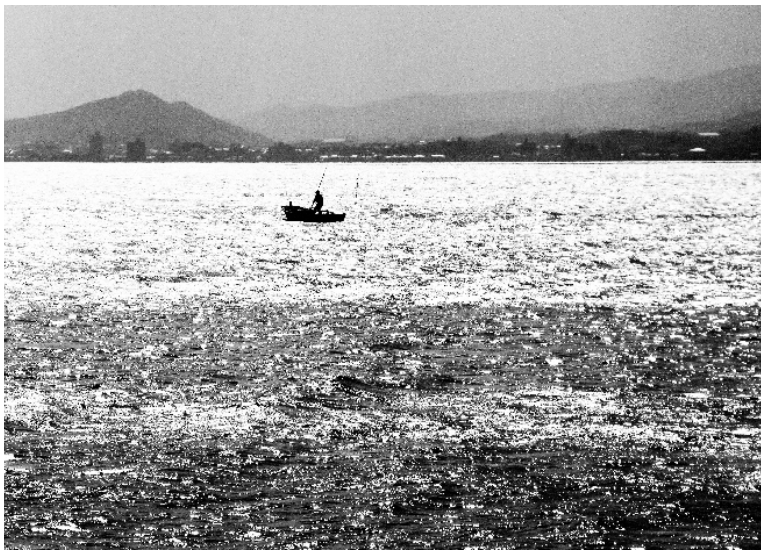
私は中海に面した安来市安来町の生まれです。

定年（平成 18 年）になった後、写真撮影の為に汽水湖エリアによく行き、故郷に広がるこの一帯の素晴らしさを改めて実感しました。

○宍道湖

夕景は全国的に有名ですが、シジミ漁に興味を持って、早朝からその漁船を追って湖周を巡りました。

また、湖岸の風景の中をのどかに走る一畑電車に魅せられ、稲生（いなり）神社の参道を横切って走る姿なども撮ったりしました。



シジミ漁（春）

シジミ漁（夏）

一畑電車

○**中海**

北岸伝いに境港まで巡り水鳥を追ったり、大根島で大きな廃船を見つけてワクワクしたり、時には夜明け前に出かけ、日本海の漁から帰港する漁船を境水道大橋の上から撮るべく待ち構えたりしました。

また、ひと頃テレビ CM で話題になった**江島大橋**（島根・鳥取の県境に架かる別名 “ベタ踏み坂”）を私も望遠レンズで狙ったりしました。（レンズの限界も感じました）

江島大橋（ベタ踏み坂）

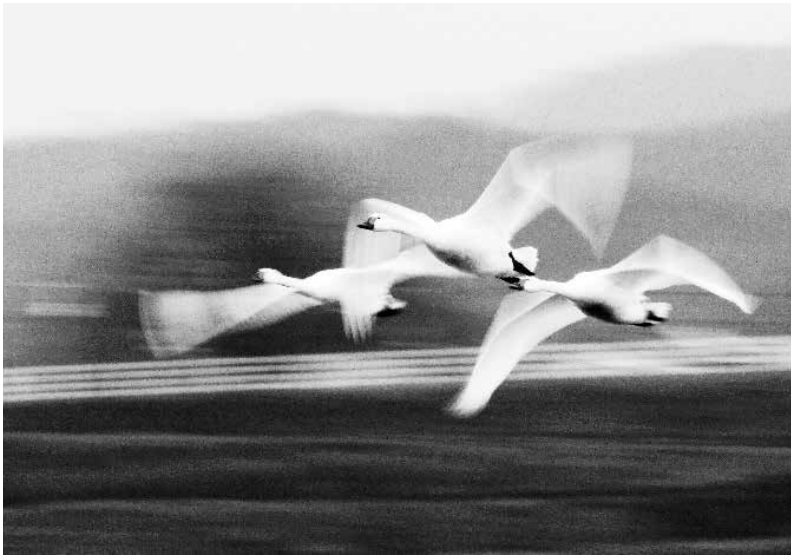
白鳥（助走）

○**野鳥**

人里の白鳥…冬場、安来市を流れる伯太川沿いの水を張ってある田圃には約 1,000 羽のコハクチョウが飛来します。夜は米子水鳥公園などで眠り、早朝に群れを成して渡ってきます。

まだほの暗い夜明けの上空で、突然、白鳥の鳴き声が聞こえ、渡りの大群に気付いて感動することがありました。

その田圃の畦道に行くとすぐ目の前で白鳥を見ることが出来て、頭上を低空で飛び交う白鳥の親子などを撮ることが出来ました。



白鳥（飛翔）

ウミネコ

○ウミネコ…日御碕にある経島（ふみしま）

周辺で多くが群れを作って生息していますが、厳しい冬の荒波の上で、時折、全てのウミネコが一斉に群れ飛ぶのは壮観なシーンでした。

○山

大山…春夏秋冬の風景を撮ろうと思い、冬はスノーシューで雪原を歩いたり、夏には年甲斐もなく山頂まで登りシンドイ思いもしました。

枕木山…汽水湖地帯全域の姿をカメラに収めようと無謀にも積雪の日に車で登ったりもしました。

枕木山頂からの壮観（中海、大根島、大山）

○祭り

前々回の船神事ホーランエンヤ（平成 21 年）の時は松江大橋近辺から見たのに続き、急いで東出雲町出雲郷（あだかえ）に移動して意宇川の川辺で櫂伝馬船の感動的な絵巻を堪能しました。

意宇川の櫂伝馬船

昨年来、コロナ禍で出掛けられない日が増えたので溜まった汽水湖地帯の撮影データを見直しています。

いつの日か汽水湖地帯の写真の中からテーマを絞って写真展を行うのが現在の私の夢になっています。

「この世界の片隅で」

森藤 哲章（16期）

「おじいちゃん、おじいちゃん、なんで寝てるの?」。「腰が痛くてな」。階段をハイハイしながら上って２階で寝ている祖父に声をかけていたことや、暑い季節に葬式があったこと等をおぼろげながらに覚えています。祖母から「おじいさんは戦艦大和の大工をしていたんだよ」と聞かされたこともなんとなく覚えています。

しかし、戦艦大和についての知識も乏しく、ただ死んだ祖父は大工をしていたのだということは子供ながらに認識をしていましたし、物置にある大工道具を見る度におじいさんが使っていた物かなと思っていました。

最近、テレビで戦艦大和についての番組がしばしば上映されるようになり、戦艦大和は神格化されてきています。戦艦大和の話を見聞きする度に、「おじいさんは本当に戦艦大和の大工をしていたのかな、そんなに偉い人だったのかな、仏壇に飾ってある写真を見ながら育ってきたのですが、4 歳頃祖父の顔をもっとじっくり見て認識し、戦艦大和についての話を聞いておけば良かったな。」と思うようになりました。

父親が残した過去帳等を見返していると、祖父は呉海軍工廠で 35 年も務め組長にまでなっていたとのこと。なぜ、呉で働きだしたのか軍隊手牒を見ると、明治 38 年頃に島根県から呉の方に移動して仕事をするようになったようです。大正 4 年には、私の祖母 (島根県女子師範学校一期生) と結婚をして、呉の隣町である吉浦に住み、呉に通勤していたようです。

私の想像では、現在の安来市広瀬町西谷出身の長島 (旧姓；小林) 寛次という方が、海軍主計大尉をされていたことがあったようですが、その方が縁を持ってくれたのかもしれません。父親も祖母に連れられて江田島の長島宅を訪れたことがあったとのことです。

令和２年 12 月に、[旧軍港・呉の歴史と「戦艦大和」1 日学校２日間] と言う題目で、ツアー旅行が企画されていました。このコロナ騒ぎの中での企画であり前日まで「取りやめ」の知らせが届くのではないかと心配していました。

呉には数回行ったことがありますが、正式なガイドを受けたかったので待ちに待った旅行でした。新大阪駅の集合場所は換気の良いところでした。新幹線の中でも「車内では独自の空調をしております。ご理解ください。」との放送がありました。一日目は、宇品港からクルーズ船で呉港に行き、ガイドさん付きの船から戦艦や潜水艦を見学しました。テレビや写真でも見ていますが、晴天の中で海から接近の見学は感激するものがありました。

「ドラマで有名な“この世界の片隅に”に出てくる

護衛艦 [さみだれ] →支援艦 [げんかい] →護衛艦 [加賀] →その奥に灰ケ峰を望む

“すずさん”の住まいは、あの高い山の斜面あたりです。」とガイドさんに訪ねて教えてもらいました。当時の呉港が一望できたであろうと思いをはせました。

ホテル (安浦町内) には、大阪からの修学旅行生を乗せてきたバスが 1 台だけありました。予約キャンセルもあるようでした。コロナ感染予防に大浴場にも入らず、ベッドの枕・シーツは奇麗にセットされていましたが、更に充分の消毒スプレーをしました。翌日はバスで呉に戻り、陸地からの見学でした。呉では一流のガイドさん達の説明がありました。

澎湃館

アレイからすこじま前の澎湃館でのガイドでは、戦艦大和会の相原謙次顧問（元呉市職員で、大和ミュージアム開館や戦艦大和潜水調査と引き上げ、1/10 縮尺の戦艦大和作成等に尽力された）が講演をされました。

私は手を挙げて質問し、あらかじめ用意していた祖父の資料（下の写真）を見てもらいました。「これはお家の宝ですね。戦艦大和の大工であったことを私が証明します。」と言ってくれました。

賞状

壹等賞牌 森藤弥左衛門

右者海軍工員トシテ三十年間勤續シ海軍ニ功績尠カラズ依テ頭書ノ賞牌ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和十五年二月十一日

呉海軍工廠

ツアーで昼食をした海軍料亭 [五月荘；別名メイ] の前御主人は、戦前の花街の写真等を見せながら楽しくお話をされました。「中曽根康弘元総理大臣は海軍主計科に勤務しておられたので、「懐かしいな」と言って訪れてくれましたし、石破茂元防衛庁長官は 4 度も訪れてくれました。」とのことでした。

大和ミュージアムでは初めて潜水艦の中に入り潜望鏡も覗きました。

私の恩師である石川兵衞先生 (奈良医大第一内科元教授・奈良医大元学長) は旧海軍兵学校第 74 期卒業生であり、周囲に数名の海軍兵学校の卒業生がおられました。尾前照雄先生 (国立循環器病センター元総長) は旧海軍兵学校第 75 期卒業生で石川兵衞先生と寝食を共にされた後輩です。

沢山の偉い人達と祖父の接点はなかったとは思いますが、道でのすれ違いはあったかもしれません。遠い昔のことに思いをはせています。

戦艦大和では沢山の方々が戦死されましたが、造船に関わってコールタール等の発癌物質も扱っていたと思われる祖父は 65 歳で亡くなりました。きっと腰椎に癌が転移して死んだのだと思うと、もう一つの戦死ではないか?と思ったりもしています。

「コロナのない夏～1970年への旅」

村田　貢（22期）

ここ15～6年、隠岐へ帰省するときはひとり旅することに決めている。京都の自宅に猫が二匹居て、夫婦で留守に出来ないからだ。

飛行機を利用すれば伊丹から隠岐まで一時間足らずで着くのだが、夏にそれではつまらない。せっかく田舎に向かうのだから道中の空気を吸い季節感を味わいたい。中国縦貫道から米子道を通る高速バスを利用する。高校生時代を過ごした場所に寄り道出来るのがいい。

京都から出発する出雲市行きの夜行バスに乗り松江駅で降りる。早朝の五時過ぎに着くがお盆の頃なのですっかり明るい。長旅で首や腰が痛いが清々しい朝だ。

バスを降りると、近くのコンビニで飲み物とパンを買って駅の待ち合いまで行き、洗面を済ます。七類行きの乗り換えバス出発まで2時間以上あるが、やることは決まっている。駅の正面へ出て左に進む。朝日町や寺町といった街並みを越えてまっすぐ歩いていくと宍道湖畔の白潟公園にたどり着く。いっぺんに目の前の景色が広がる。大好きな場所だ。

宍道湖の朝はいつ来ても穏やかで美しい。嫁ヶ島と公園の松の枝振りとのマッチングが絶妙だ。この街で3年間過ごした身にとって、とても誇らしい眺めである。時間が合えばシジミ採りの小舟にも出会える。ずっと西の彼方には朝もやの中に霞む出雲平野がある。神々しい思いで見る。右手にある「しんじ湖温泉」のホテル街の景色もいい。湖水に浮かんでいるような浮遊感がメルヘンチックな気分にさせる。

ベンチに座ってパンをかじっていると、ジョギングや犬の散歩をしている地元の人が「おはようございます!」と声を掛けてくれる。そんな時はいかにも遠方からの旅人然として「おはようございます!」と礼儀正しくお返しする。学生時代にここに残してきた何かを取り戻したようないい気分になる。

シジミ漁の小舟が浮かぶ早朝の景色を楽しみながら、50年前には無かった橋をゆっくりと渡って末次公園まで来る。高校生時代、水際に腰掛けて水郷祭の花火を眺めた場所だ。淡い思い出もある・・・。今は湖岸一帯が遊歩道になっていてこれがまたいい。地元の人とすれ違いながら温泉街の端っこ辺りまで歩いて行き、振り返る。まるで平和の象徴のような眺めだ。

帰省する年によっては七類からのフェリーを午後の便にして、遊ぶ時間を作る。一畑電鉄のしんじ湖温泉駅（北松江といったほうが我々にはピンとくるが・・）で一日乗車券を買って、出雲大社まで行ったり、古い電車を見に平田駅で下車したり、途中の無人駅でホームに降りたりして、湖面の向こう側にある景色をぼんやり眺めながらまた戻ってくる。

時間があるときはレンタサイクルを借りて城下町の探索だ。さすがに歴史の街、あちこちに古い橋や史跡の由緒書があって退屈しない。よく遊びに行った同級生の古家が見つかったりもする。こうして下宿学生時代には気づかなかったことを新たに発見し、当時を思い出したりして、ますます松江という街が好きになるのである。

続く・・・。

「知られざる理想の教育者 倉崎仁一郎」
― 作家　川端康成の恩師 ―

（松江市文化協会発行『湖都松江』第 40 号に
掲載された同名作品を転載しました。）

押田　良樹（１１期）

■偶然の出会い

これから述べるのは、学問と学校と生徒をこよなく愛し、一切の名利を追わず恩師への報恩に徹し、生涯を中等教育に捧げ、そして、その突然の死は生徒たちの発意による「生徒葬」という前代未聞の美談をもたらした、一人の中学校教師の物語である。

七年前、筆者が近畿双松会（旧制松江中学、新制松江高校、松江北高の近畿地区同窓会）の会長を務めていたとき、熊本の尚絅大学助教（現在は茨城大学教育学部准教授に異動）で川端康成の研究者である宮﨑尚子氏から、川端たちの年次の生徒に五年にわたって英語を教えた倉崎仁一郎という教師が、松江中学の出身であり、近畿双松会に倉崎に関する資料が保存されていないか問い合わせてきたのであった。

筆者は松江から関西に出て六〇年、吹田に住んで四〇年になるが、隣町茨木を終焉の地とした、この松江出身の人物に大いに興味を覚えた。以来、宮﨑氏の研究のお手伝いをする中で、この倉崎仁一郎という人物に惹きつけられ、その全容解明に取り組んできた。

■生い立ち

倉崎仁一郎は明治元年（一八六八）二月一日、倉崎禮助、イネ（高見兵衛の娘）の次男として、北堀町新橋町で生まれた。倉崎家の屋号は足立屋だった。三歳上の金之助と十三歳下の清との三人兄弟だった。

新橋町は、塩見縄手から内中原へと堀川沿いに通じる道の、新橋までの西側一帯で、江戸期の武家町である北堀町の中にある町人町だった。倉崎家は新橋のたもとに近い場所にあった。

倉崎は、明治八年一月、桜崎小学校（のち北堀小学校に改称）に入学し、十二年五月に卒業、九月に松江中学に入学した。十一歳と七か月の時である。この時、三歳上の金之助も同時に入学している。他には岸清一、奥村（のちに若槻）礼次郎、尾原亮太郎、山本庫次郎などもいた。学舎はそれまで和多見の善導寺の仮校舎にあったが、この年殿町に新築されたばかりであった。

倉崎は、のち山庫さんと呼ばれて母校の名物教師となる、上記の山本庫次郎と生涯にわたっての親友となるが、二人は年少でもあり、当初は勉学が皆についていけず、一年後、当時の校長の指示で、一級下の生徒たちともう一度やり直すことになった。その後は二人とも急速に成績を伸ばし首席を争うほどになった。

二人は、ともに家庭の事情から上級学校への進学は諦め、明治十七年七月に、新設の高等科に進み、十九年七月に卒業した。倉崎は首席だった。一緒に入学した岸清一などより三年遅れたわけだが、この三年は、倉崎の英語、文学への学識の蓄積に役立つとともに、田所貢と加藤逢吉という、人生に大きな影響を受けることになる二人の恩師と出会い、伊原敏郎（青々園）、数藤斧三郎（五城）など多くの年下の親しい友人を得る貴重な年月となった。

■二人の恩師との出会い
佐賀へそして茨木へ

明治十九年七月松江中学卒業後、倉崎は数か月間、母校の化学教師加藤逢吉の助手を務めた。加藤は同年五月に宮城県師範学校から赴任してきて、松江中学と島根県師範学校の教諭を兼務したが、その年の十二月には、滋賀県尋常師範学校に転出した。従って加藤が松江にいたのは僅かに半年余りに過ぎなかった。

九年後、倉崎は、再び加藤のもとで、終生の関係を持つことになるのだが、倉崎の経歴を時代順に紹介するため、それは後に記すことにする。

加藤が松江を去ったのち、倉崎は明治二十年十月から松江高等小学校の訓導を務めた。高等小学校は前年に設立されたばかりであり、教育も手探りの状態であった。倉崎は若年ながら教師間でリーダーシップを発揮し、同僚を誘って、女性宣教師パソエのもとに通って新約聖書により英語の指導を受け、また漢学の泰斗内村鱸香の塾に学ぶなどして、教師としての実力向上に努めた。

明治二十三年三月、倉崎は思いがけず、中学時代の校長田所貢に招かれ、佐賀県尋常中学に赴任することになった。

田所貢は倉崎の中学時代後半三年間の校長であり、明治十九年五月に高等師範学校教諭に転じていた。田所は生徒たちに尊敬される人格者であった。当時、松江中学を卒業し上京して上級学校を目指す者は、上京後まず田所のところを訪ねた。

田所は、明治二十三年初め佐賀県尋常中学校（現佐賀西高校）校長に赴任するとともに、かつて中学生であった当時から、その人柄・能力を認めていた倉崎を松江から呼び寄せた。

倉崎の友人西田千太郎は明治二十三年三月十五日の日記に「松勢（原文のママ）水亭ニ於テ、佐賀県中学校ニ向テ出向セントスル倉崎仁一郎氏ノ為ニ開ケル送別会ニ出席ス。出席スルモノ凡四十名。」と記している。

しかし、田所はその年の十一月に突如他界した。倉崎が師のもとにいたのは一年に満たず、恩に報いるにはあまりに短い期間だった。

そして、五年後の明治二十八年に到り、今度は、前述の松江中学時代の恩師、加藤逢吉が、新設の大阪府立第四尋常中学校（のち茨木中学、現在の茨木高校）の校長に就任するにあたって、倉崎を呼び寄せたのである。

加藤は、田所と同じように、松江時代のわずか数か月間、自分の助手を務めただけの倉崎の人物を高く評価しており、新設校の運営に自らの片腕と頼むべく、招いたのである。それ以来、二人は生涯の師弟関係を結び、大正六年一月に倉崎が世を去るまでの二十二年間その関係は続いた。

明治二十八年四月、二十七歳の倉崎は新婚の妻スエとともに茨木に赴任した。スエは松江市西津田の長谷川春水の娘であった。

■茨木中学の教師として

当時、大阪府の府立中学校は明治六年創立の大阪尋常中学校（現在の北野高校）のみであったが、明治二十八年二月に、堺、八尾、茨木に、大阪府第二、第三、第四尋常中学校が誕生した。現在の三国ケ丘、八尾、茨木高校である。

加藤逢吉は高知県尋常中学（現高知追手前高校）から、大阪府第四尋常中学の初代校長として赴任した。加藤は「勤倹力行」の校訓と「質実剛健」の校風を定め、その率先垂範に努めた。

倉崎は歴史と英語を担当し、明治三十二年四月から二年半寄宿舎の舎監も務めた。また長く風紀監として生徒の指導に当たった。

倉崎の没後、大正七年に発行された、茨木中学の同窓会「久敬会」の臨時会報「故倉崎仁一郎先生追悼号」には数多くの卒業生、在校生、同僚教師、知人から追悼文が寄せられているが、それらを読むと倉崎の人間像が浮かび上がってくる。

倉崎は生徒たちに「クラっさん」と呼ばれた。それは、あだ名ではなく尊敬と親しみが込められた呼び名だった。「クラっさんが来た」と誰かが言えば、自然と皆の居ずまいを正させる威厳、それでいて慕わしく思わせる親しみやすさも併せ持つ、厳父であり慈父でもあった。体躯は若い頃は痩身だったが、年を追って肥満し、亡くなる前年の身体測定によると、現在でいうＢＭＩ指数は二十八であった。

服装には全く頓着せず、いつもよれよれの服を身に付け、何年も使ったメガネは曲がっていても気にしない様子だった。

出雲訛りの低音で話し、能弁ではなかったが無類の話好きだった。

生徒一人一人のことを家族のことも含めてよく知っており、病気がちの生徒には対処法を教え、不登校の問題生徒には自分の家から通わないかと提案するなど親身になって生徒のことを心配した。

末娘（四女）の敏と　大正５年頃

授業の仕方もユニークで、例えば、

授業中あくびをした生徒を見つけてもただ叱るのではなく、英語で「あくび」を何というか、その用例などを示した。当の生徒は勿論のこと、生徒は皆その単語、用例を自然と覚えて身に付くというようなやり方だった。

給料の大半を英語などの専門書に割くほど、研究熱心であり、英語に関しては深い学識を得ていた。ある教育誌に教育界の大御所である某博士が、当時の中学生の英語の学力が劣っているのは中学校の英語教育に問題があるのではないかという趣旨の意見を載せたことがあった。これに対して倉崎は「教育時論」誌上に数次に渡って博士の見解を「眼高粗漏」の説であるとして反論し、全国中学校の英語教師に快哉を叫ばせたこともあった。

そのような学識を買われ、開成館から五巻に渡る「ニュー・エデュケーション・リーダー」の編纂を委嘱された。

この教科書は、倉崎本人によって、川端康成たちの年次の生徒の授業に一年から五年まで使用された。川端は通学の電車内で他校の生徒がそれを手にしているのを見て誇らしく思ったと述懐している。

■川端康成の恩師

川端康成は明治四十五年に入学した。川端は満二歳までに両親を亡くし、九歳の時には離れて暮らしていた四歳上の姉も他界し、唯一の肉親となった父方の祖父と暮らしていたが、その祖父も川端が十四歳の時亡くなった。

全くの孤児となった川端は、中学三年の終わりに寄宿舎に入った。

寄宿舎は川端にとって唯一の家となった。そういう川端にとって、倉崎は父のような存在に思えたであろう。

中学入学時は首席だったともいわれた川端だが、入学してからは、書店にツケがたまって苦境に立つほど、文学に耽溺するようになった。授業中も小説を読むなど、教科に身が入らず成績は下がる一方だった。しかし、英語だけは例外だった。川端の日記を読むと、倉崎の受け持つ英語だけは予習復習に熱心だった。そして、倉崎に褒められたことを素直に喜び、さらに褒められるためしっかり頑張ろうという意欲を示している。川端が卒業後、周囲の誰もが無理であろうと思った一高に合格し、東大の英文科に進んだのも、この英語の実力がものを言ったのだと思われる。

川端は、加藤元校長の依頼を受けて、昭和七年の「久敬会会報」に、倉崎の十七回忌に寄せる一文を載せており、その中で次のように書いている。

「私の長い学校生活で、倉崎先生ほど私に感銘の深い教師は一人もなく、倉崎先生に対するほど私がよい生徒であったことは一度もない。」

学識が高く人格者である倉崎には、上級学校からの招聘の話がいくつかあった。しかし、恩師への報恩に徹すると決めている倉崎には、もとより名利を追う気持ちは全くなく、また、現在より幸福な境遇は望めないとして、すべて固辞した。

■生徒の肩に柩を戴せて

川端たち五年生の卒業が二ヶ月先に迫っていた大正六年一月二十九日未明、倉崎は脳溢血で倒れそのまま帰らぬ人となった。

満四十八歳だった。突然の訃報に全校生徒の驚きと悲嘆は大きかった。

一年生の時から五年間、倉崎から毎日英語の教えを受けた川端たち八十八人の五年生はとりわけ大きい悲しみの中にあったが、臨時の学年集会を開き、師への恩返しをどのような形で行えばよいかを話し合った。そして、自分たちで葬列の柩を担ごうということに決まり、教師たちもそれを許可した。

葬儀は一月三十一日午後、東本願寺茨木別院で行われた。当日、寒風の吹きすさぶ中、午後三時に出棺した。幡、提灯、生花、花環などすべてが、絣の着物に袴、脚絆、草履履きの生徒たちの手にあった。質実を校是とする茨木中学の制服は、当時ではもう珍しくなった和服だった。

そして恩師の柩は三十名の生徒の肩に戴せられた。両側に交代の生徒三十名が列を作った。川端は棺を担ぎたかったが体力が劣るので、提灯持ちを受け持ったという。

三町にも及ぶ長い葬列は、倉崎家から茨木別院までの町中を、粛々と進んだ。

葬儀は、在校生に加え多くの卒業生、同僚、知人合わせて千人内外が参列し、悲しみの中に執り行われた。

花環を掲げ持つ生徒たち

葬儀に向け二十九日に松江を立った兄金之助とその長女は、折からの大雪のため浜坂で汽車が足止めに遭い、遠路釜石から来る長女夫妻も同じく到着が遅れ、いずれも到着は式当日の三十一日の深夜になる見込みとなった。二組の親族が最後のお別れができるよう、荼毘に付すのは翌一日に延ばし、柩はそのまま茨木別院に置き、五年生の生徒たちが恩師の亡骸を守って通夜をすることになった。

一旦身支度のため帰宅した生徒たちは、遠方の者や体の弱い者は来なくてもよいと言われたにもかかわらず、ほとんどが再び別院に集まった。夜を徹して、恩師の思い出を語り合い、寺院の生まれの生徒数名が読経をして朝を迎えた。前夜遅く茨木に着いた兄と姪、長女夫妻が来て、最後のお別れをした。

生徒たちは再び恩師の棺を担ぎ、町はずれの火葬場に向かった。

葬儀、通夜を経た翌日の二月一日の様子を、川端の三学年下の大宅壮一は日記にこう書いている。

「昨夜より、五年級の生徒は尽く御坊の本堂にて、先生の棺近く侍りて通夜をいたし候。昨日吹き込む寒風を厭わず来りて会葬せし多くの卒業生といい、先生の死し給いし後の五年生の振舞といい、親子よりも厚き、師弟の情けに世人は大いに感泣いたし居る由に候。」

川端はこの葬儀前後の模様を綴った文章を国漢の教師であり舎監でもある満井成吉に見せた。

「『エッー・ほんとうか?』信ずるにはあまりの驚愕であった。否むには、あまりに友の顔が蒼ざめて居た。舎監室の満井先生の涙は更に此悲しむべき事實を信ずべく強いた。あヽ我敬愛惜く能はざる倉崎先生は一月二十九日の未明、多くの人々の驚きと悲しみの中に突如として逝かれたのであった。」

満井は、このように始まる川端の文章を読んで感心し、茨木中学時代の同期生で、雑誌「団欒」を主宰している石丸梧平に送った。石丸は、恩師を慕う生徒たちの行いに感動し、「生徒の肩に柩を戴せて」と題して「団欒」に掲載した。川端の雑誌に載った最初の作品だった。川端はその一年前の日記に、既にノーベル賞への思いを書いている。小林一三のような実業家や教育界、宗教界の大家の中に中学生の文章が載ったのである。

小説家を目指す将来に、川端が大きな自信を得たことは十分想像される。そして、生徒葬という、純真な生徒たちの真心の発露に、川端はのちの作品にみられる独特の「美」の原点を見出したのではないかと、前述の宮﨑尚子氏は指摘する。

川端は世に出た後も、同じモチーフで「キング」誌の昭和二年三月号に「倉木先生の葬儀」として、「東光少年」誌の昭和二十四年五号に「師の棺を肩に」として、二度作品を発表している。(両作品は川端康成全集第十九巻 新潮社一九八一年に収録されている)

■半世紀後も続く追慕の念

茨木高校の同窓会である久敬会に、昭和四十一年九月に執り行われた倉崎の五十回忌と生物の教師小笠原利孝の四十二回忌の合同追悼法要を伝える会報号外が保存されている。多くの教え子が参列し盛大に執り行われた様子が分かる。没後五十年を経て、教え子たちは師の享年をはるかに越え、八十歳を超える者もいた。それらの教え子が師の思い出を語る貴重なテープも保存されている。

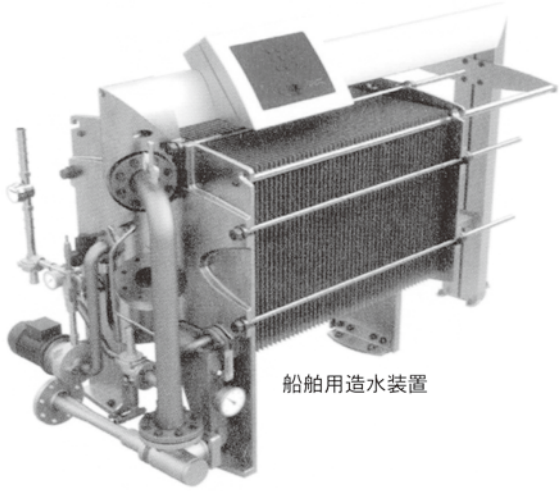
半世紀を経て、なお続く恩師への追慕の念に、師弟の絆の深さを感じる。

このように教え子から敬愛された理想の教師、倉崎仁一郎が松江の人であったことを誇りに思う。

＜※編集注＞倉崎仁一郎は旧制松江中学校７期

《鉄道車両、船舶、産業機器、ソリューション》

イメージ画像



船舶用造水装置

LEDリモコン
サーチライト

鉄道車両運転台

株式会社
トーヨーコーポレーション
TOYO & ENGINEERING CORP.

本　社/〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35　Tel.06-6443-2061 Fax.06-6443-9736
東京支店・豊中工場

©Gestaltung：K.Raum

編集後記

去年の会報の「編集後記」を読み返しましたら、会報が皆様のお手元に届く4月中旬にはコロナ感染の収束の道筋も見えますよう、島根の感染者ゼロがいつまでも続きますよう、この会報が皆様の“元気”に少しでもお役に立てますよう…、と書いておりました。

なんと楽観的だったことか!!と驚きます。あるいは楽観的でありたかったのかもしれません。この一年で人間も自然界における一生物にしか過ぎないことを思い知らされました。

「総会・懇親会」の開催を断念せざるをえなくなった時、せめて「会報」だけは出そうと考えました。先人から受け継いだ伝統をコロナごときに負けてたまるかという意地にも近い感情でしたが、近況報告や自由テーマで多くの皆様から投稿の連絡をいただいた時には、本当に喜びました。このご協力がなければ発行はむつかしかったと思います。心から御礼を申し上げます。

巣ごもりを続けたこの一年、草花・樹木の色や開花や落葉に、例年にも増して心を動かされていることに気づきました。とりわけ、時折の人との交流は何物にも勝るものであることがよくわかりました。人はただの「人」ではなく、まさしく「人間」なのでしょう。

コロナ後にはどんな世界が待っているのかわかりませんが、今は変異型にも負けないぞ!!という強い気持ちを持ち、かつ慎重に向き合っていきたいと考えています。皆様との再会が一日も早からんことを心から願いつつ、編集を終わらせていただきます。　“だんだん”

2021.3.31　松本耕司（16期、会長兼事務局長）

この会報を入手ご希望の場合、またご質問については下記までご連絡ください。
近畿双松会専用アドレス：master@kinki-soushoukai.org

近畿双松会報

2020（令和2）年度版

通巻62号

発行日／令和3年4月10日
発行者／近畿双松会
所在地／〒550-0002
大阪市西区江戸堀1‐21‐35
㈱トーヨーコーポレーション内
TEL.06‐6443‐2062
FAX.06‐6443‐9736
郵便振替口座／00910‐0‐103665
近畿双松会
印　刷／(株) 三星社
〒532-0005
大阪市淀川区三国本町2‐1‐7
TEL.06‐6392‐0191

ホームページ

メールマガジン
登録（P13参照）

LINE@
登録（P13参照）

近畿双松会の歴史

近畿双松会の創設は大正末期にも遡ると言われ、以来、近畿在住の旧制松江中学校卒業生有志により毎年会合を催し親睦がはかられてきました。戦争により活動は一時中断されましたが、昭和33(1958)年に再設立され、その後、新制の松江高等学校・後継の松江北高等学校卒業生の同窓会と統合。平成30(2018)年には設立60周年を迎え、歴史と伝統を伝えて"新しい時代"に向かいます。